

平成20年度 社会福祉法人いいたて福社会事業報告書

1. 基本方針について

特養30床増築、新エネルギー（チップボイラー）工事が施工され、また、介護報酬の改定等、当法人にとって激動の一年。しかしながら、社会的状況や経営的観点からみれば、引き続き厳しい状況が予測されるため、各事業の安定化を図るとともに、より多く理事会等を開催し、法人役員として積極的に運営に参画し、当法人らしい施設づくりを行ってきた。

2. 事業内容

(1) 理事会の開催状況

| 回数 | 開催日 | 出席(人) | | 内 容 |
|-----|------------|-------|----|--|
| | | 理事 | 監事 | |
| 第1回 | 平成20年5月26日 | 7 | 2 | 報告第1号 平成19年度第7回理事会議事録の確認について 報告第2号 平成19年度第7回理事会以後の諸報告について 議案第1号 平成19年度社会福祉法人いいたて福社会事業報告について 議案第2号 平成19年度社会福祉法人いいたて福社会一般会計収支決算について 議案第3号 平成20年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福社会給与規則の一部変更について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会特別養護老人ホームいいたてホーム処務管理規程の一部変更について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福社会いいたてデイサービスセンター処務管理規程の一部変更について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福社会いいたてヘルパーステーション処務管理規程の一部変更について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福社会いいたて在宅介護支援センター処務管理規程の一部変更について 議案第9号 社会福祉法人いいたて福社会飯館村地域包括支援センター処務管理規程の一部変更について 議案第10号 社会福祉法人いいたて福社会に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について 議案第11号 社会福祉法人いいたて福社会やまゆり保育所処務管理規程の一部変更について 議案第12号 社会福祉法人いいたて福社会やまゆり保育所に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について |
| 第2回 | 7月3日 | 6 | 2 | 報告第1号 平成20年度第1回理事会議事録の確認について 報告第2号 平成20年度第1回理事会以後の諸報告について 議案第1号 平成20年度やまゆり保育所会計補正予算について 議案第2号 平成20年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第3号 特別養護老人ホームいいたてホーム増築工事に係る入札について 議案第4号 地域新エネルギー等導入促進事業に係る入札について |
| 第3回 | 7月31日 | 6 | 2 | 報告第1号 平成20年度第2回理事会議事録の確認について 議案第1号 特別養護老人ホームいいたてホーム増築建築工事請負契約について 議案第2号 特別養護老人ホームいいたてホーム増築電気設備工事請負契約について 議案第3号 特別養護老人ホームいいたてホーム増築機械設備工事請負契約について 議案第4号 いいたてホーム駐車場整備工事請負契約について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福社会の評議員の選任について |
| 第4回 | 8月1日 | 7 | 2 | 議案第1号 社会福祉法人いいたて福社会の理事長の選任について |
| 第5回 | 8月11日 | 7 | 2 | 報告第1号 平成20年度第4回理事会議事録の確認について 議案第1号 特別養護老人ホームいいたてホーム増築工事監理業務委託契約の締結について |

| | | | | |
|------|----------------|---|---|--|
| 第6回 | 9月10日 | 7 | 2 | 報告第1号 平成20年度第5回理事会議事録の確認について 報告第2号 平成20年度第5回理事会以後の諸報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会やまゆり保育所に就業する職員の就業時間等に関する細則の一部変更について 議案第2号 特別養護老人ホーム「いいたてホーム」木質チップボイラー導入工事請負契約の締結について |
| 第7回 | 10月10日 | 7 | 2 | 報告第1号 平成20年度第6回理事会議事録の確認について 報告第2号 平成20年度第6回理事会以後の諸報告について 議案第1号 「いいたてホーム」木質チップボイラー室新築工事請負契約の締結について |
| 第8回 | 12月17日 | 7 | 2 | 報告第1号 平成20年度第7回理事会議事録の確認について 報告第2号 平成20年度第7回理事会以後の諸報告について 議案第1号 平成20年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第2号 平成20年度いいたてデイサービスセンター会計補正予算について 議案第3号 平成20年度飯舘村地域包括支援センター会計補正予算について 議案第4号 平成20年度やまゆり保育所会計補正予算について |
| 第9回 | 平成21年 1月26日 | 7 | 2 | 報告第1号 平成20年度第8回理事会議事録の確認について 報告第2号 平成20年度第8回理事会以後の諸報告について 議案第1号 特別養護老人ホームいいたてホーム増築機械設備工事請負変更契約について 議案第2号 「いいたてホーム」木質チップボイラー室新築工事請負変更契約について 議案第3号 厨房機器（大型電気製品）購入契約の締結について 議案第4号 特別養護老人ホーム増築工事に係る借入金の限度額及び借入先について |
| 第10回 | 2月12日 | 7 | 2 | 報告第1号 平成20年度第9回理事会議事録の確認について 報告第2号 平成20年度第9回理事会以後の諸報告について 議案第1号 平成20年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第2号 平成20年度設備整備に係る家電製品購入契約の締結について 議案第3号 平成20年度設備整備に係る厨房器具（大型電気製品）購入契約の締結について 議案第4号 平成20年度設備整備に係るベッド関係用品購入契約の締結について 議案第5号 短期入所生活介護事業の10床を施設本体へ転換することについて 議案第6号 社会福祉法人いいたて福祉会就業規則の一部変更について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福祉会やまゆり保育所就業規則の一部変更について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福祉会准職員の就業規則の制定について 議案第9号 社会福祉法人いいたて福祉会やまゆり保育所准職員の就業規則の制定について 議案第10号 社会福祉法人いいたて福祉会再雇用職員管理規則の一部変更について 議案第11号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について |
| 第11回 | 3月25日 | 7 | 2 | 報告第1号 平成20年度第10回理事会議事録の確認について 報告第2号 平成20年度第10回理事会以後の諸報告について 議案第1号 平成20年度本部会計補正予算について 議案第2号 平成20年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第3号 平成20年度いいたてデイサービスセンター会計補正予算について 議案第4号 平成20年度いいたてヘルパーステーション会計補正予算について 議案第5号 平成20年度いいたて在宅介護支援センター会計補正予算について 議案第6号 平成20年度飯舘村地域包括支援センター会計補正予算について 議案第7号 平成20年度やまゆり保育所会計補正予算について 議案第8号 平成21年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画（案）について 議案第9号 平成21年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支予算（案）について 議案第10号 社会福祉法人いいたて福祉会パートタイマーの就業規則の一部変更について 議案第11号 社会福祉法人いいたて福祉会やまゆり保育所パートタイマーの就業規則の一部変更について 議案第12号 社会福祉法人いいたて福祉会やまゆり保育所延長保育実施要綱の制定について 議案第13号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約の締結について 議案第14号 30床増床に伴う居住費（滞在費）及び食費の利用料について 議案第15号 社会福祉法人いいたて福祉会評議員の選任について |

(2) 評議員会の開催状況

| 回数 | 開催日 | 出席(人) | | 内 容 |
|-----|----------------|-------|----|--|
| | | 評議員 | 監事 | |
| 第1回 | 平成20年 5月26日 | 12 | 2 | 報告第1号 平成19年度第4回評議員会議事録の確認について 報告第2号 平成19年度第4回評議員会以後の諸報告について 議案第1号 平成19年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 議案第2号 平成19年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支決算について 議案第3号 平成20年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第4号 社会福祉法人いいたて福祉会給与規則の一部変更について 議案第5号 社会福祉法人いいたて福祉会特別養護老人ホームいいたてホーム処務管理 規程の一部変更について 議案第6号 社会福祉法人いいたて福祉会いいたてデイサービスセンター処務管理規程 の一部変更について 議案第7号 社会福祉法人いいたて福祉会いいたてヘルパーステーション処務管理規程 の一部変更について 議案第8号 社会福祉法人いいたて福祉会いいたて在宅介護支援センター処務管理規程 の一部変更について 議案第9号 社会福祉法人いいたて福祉会飯館村地域包括支援センター処務管理規程の 一部変更について 議案第10号 社会福祉法人いいたて福祉会に就業する職員の就業時間等に関する細則の 一部変更について 議案第11号 社会福祉法人いいたて福祉会やまゆり保育所処務管理規程の一部変更につ いて 議案第12号 社会福祉法人いいたて福祉会やまゆり保育所に就業する職員の就業時間等 に関する細則の一部変更について |
| 第2回 | 7月31日 | 13 | 2 | 報告第1号 平成20年度第1回評議員会議事録の確認について 報告第2号 平成20年度第1回評議員会以後の諸報告について 議案第1号 社会福祉法人いいたて福祉会の理事の選任について 議案第2号 社会福祉法人いいたて福祉会の監事の選任について |
| 第3回 | 平成21年 3月25日 | 14 | 2 | 報告第1号 平成20年度第2回評議員会議事録の確認について 報告第2号 平成20年度第2回評議員会以後の諸報告について 議案第1号 平成20年度本部会計補正予算について 議案第2号 平成20年度特別養護老人ホームいいたてホーム施設会計補正予算について 議案第3号 平成20年度いいたてデイサービスセンター会計補正予算について 議案第4号 平成20年度いいたてヘルパーステーション会計補正予算について 議案第5号 平成20年度いいたて在宅介護支援センター会計補正予算について 議案第6号 平成20年度飯館村地域包括支援センター会計補正予算について 議案第7号 平成20年度やまゆり保育所会計補正予算について 議案第8号 平成21年度社会福祉法人いいたて福祉会事業計画(案)について 議案第9号 平成21年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支予算(案)について 議案第10号 社会福祉法人いいたて福祉会パートタイマーの就業規則の一部変更につ いて 議案第11号 社会福祉法人いいたて福祉会やまゆり保育所パートタイマーの就業規則の 一部変更について 議案第12号 社会福祉法人いいたて福祉会やまゆり保育所延長保育実施要綱の制定に いて 議案第13号 特別養護老人ホームいいたてホーム設備機器保守点検委託契約の締結に いて 議案第14号 30床増床に伴う居住費(滞在費)及び食費の利用料について |

(3) 監事会の開催状況

| 開催日 | 出席(人) | 内 容 |
|----------------|----------|--|
| 平成20年 5月20日 | 監事 2名 | 平成19年度社会福祉法人いいたて福祉会事業報告について 平成19年度社会福祉法人いいたて福祉会一般会計収支決算について 理事会及び評議員会議事録について |

(4) 役員研修

| 開催日 | 出席(人) | 研修名・場所 |
|-----------------|-----------------|-------------------------------------|
| 平成20年 10月27日 | 4名 (理事2、監事2) | 平成20年度社会福祉法人役員、施設長研修Ⅰ (ユラックス熱海) |
| 12月 4日 | 監事2名 | 平成20年度「第三者委員」苦情解決情報交換会 (ユラックス熱海) |

3. その他

- ・ホームの行事に参加し、ご利用者及びご家族とのコミュニケーションを図ってきた。

1. 基本方針について

生活にケアが寄り添い、“特別”ではなく普通の暮らし（わが家）と一緒に築きあげていくことを目標に、生活を大切にしてきました。

一緒に笑い、悲しみを分かち合える、そんな時間を頂けたことに感謝したい1年間だったと思います。

ご利用者の方が居てくれたからこそ、私たちのケアができ、また、ご家族の方々からこの施設を選んで良かったと評価して頂けたことが、とても励みになりました。

当たり前前のケアがごく普通に行える「気づき」には、まだまだ課題はありますが、今後も利用者主体でのケアが行えるよう継続していきたいと思います。

2. 具体的な施策について

(1) 「ご家族等との繋がり」をキーワードに年間事業計画を立て、生活支援の展開

① 誕生会の取り組み

ア 一年に1回の記念日をどのように過ごして頂くかが課題でした。

2ヶ月前からご家族の方と連絡を取り、一緒にお祝いの計画を立ててきました。結果、自宅へ5名の方が、自宅以外へ5名の方がご家族と過ごすことができました。

始めは、「今まで通り」との返事も多かったが、中には「誕生日のお祝いを自宅で過ごしたかったが、送迎が心配であった。」との相談もあり、そこで、自宅までの送迎をすることで、負担がなく支援することができました。

どのご家族も、久しぶりに帰ったときは、心温かく配偶者や子供達、兄弟、お孫さんまで集まり迎えて下さいました。

自宅での過ごし方は、思い思いでしたが、亡くなられた配偶者の仏壇に焼香ができたとの話も聞かれ、ご家族の温かさが感じられました。

外出された方は、ご家族の方と共に、大好きなお寿司でお祝いをされた方や、釣りやドライブを楽しんで戻られたようです。

施設では行うことのできない、家庭ならではのあたり前のことを、誕生日の記念日にできたことは、家庭に優る物はないと感じました。今後も、誕生日という記念日を大切に過ごして頂けるように、更にご家族との連絡を密にしていきたいと思えます。

イ ホームでの誕生日のお祝いも、楽しく心に残る物としてきました。

例年通り、厨房手作りのケーキでお祝いすることができました。ご家族の方には大変好評で、介護職員だけがご家族からの喜びのお礼をされるのは申し訳ないとのことで、厨房職員にケーキを届けて頂き一緒にお祝いすることができました。

② 家族へのお便りへの取り組み

ア 2ヶ月に1回、手紙だけでなく、写真を添える等の工夫をしながら、ご家族の方へ近況をお知らせしています。ご家族の方からは「送られてきた手紙付きの写真を家に貼ってある。」等の返事も頂き、ご家族から離れることがないように、今後も続けていきたいと思えます。

③ 生活の楽しみへの支援

ア 「できない」から「できる」への視点の転換の取り組みでは、残された機能を現状維持でき、生活の中で負担なく過ごされるよう支援してきました。

午前11時から30分間、レクリエーションで体を動かし声を出して笑える時間を設けるため、ボール運動を始めとし、風船バレーや魚釣りゲーム等、競い合いながらも自然と体が動かせるゲームを中心に行ってきました。

また、レクリエーションの最後には、食前体操を取り入れ、美味しくスムーズな食事ができるように努めてきました。

イ 「～をしたい」との希望を聞けるよう心掛け、行事や外出等に楽しみをもてるよう、生活行為を介護から支援へ換えられるようにしてきました。

ウ 「今日は歩けた」「今日は全部食べられた」等と、一日一日の生活を楽しみにすることで、達成感を共感して頂けるようにしてきました。

全ての方ができた状態ではありませんが、ちょっとした喜びが持てることで、日々の楽しみを見出せるように努めてきました。

④ ご利用者の‘顔’を見て行うケアの取り組み

ア 業務優先とならないように、再度、個別のケアを見直してきました。また、専門的ケア委員会（食事・入浴・排泄・口腔ケア）では、率先して勉強会を行い、即実践することで、ケアの見直しを行ってきました。

現在のケアがマンネリ化しないよう、常に勉強会を行うことで知識向上と意識が高められてきたと思います

⑤ 重度化における個別ケアと終末期ケアの支援

ア 一年間に14名の方が退居されました。ホームでお見送りすることは簡単なことではありませんでしたが、その人が最期までその人らしく、過ごして頂けるよう努めてきました。

「今日から終末ケアではなく、その人らしく最後まで」の気持ちを大切に、日々後悔しないケアに心掛けました。「プリンが一口食べられた」「お風呂に入れてあげたい」「淋しくないように皆の声を聞いていて欲しい」「体の痛みをどうにかしてあげたい」等、一緒に過ごしてきた家族同然の気持ちで、毎日の変化に共に喜び、共に涙してきました。しかし、最期のお別れは淋しいものです。最期の旅立ちに一晚中好きな曲をかけてお別れすることもできました。

ホームでのお別れ会では、生活を共にしたご利用者はもちろんのこと、ご家族の方や職員が一人ひとり献花し焼香にてお別れをしてきました。旅立たれた顔を見ながら、今までのケアが本当に良かったのか、もっと何かできたのではないかなど、反省の時間だと思っています。そして、最期の大切な時間を一緒に過ごさせて頂きとても感謝しています。

(2) 新規事業

① 外出への支援

外出できる期間が季節的に短く、また、健康状態により外出への支援は回数を増やすことはできませんでしたが、季節の変化を見て頂けるよう、できるだけ表にできるように努めてきました。次年度も、季節を感じて頂くため積極的に外出支援を行い、また、地域での行事や買い物等で、社会参加を図れるようにしていきたいと思っています。

② 家族・地域の人とのふれあい

ホーム敬老会には、村婦人会の方々がボランティアに来所され、村の敬老会に出

席できない地域の方が見に来て下さるようになり、広い東棟ホールが、とても狭く感じられるくらい賑やかな一日となりました。また、なかには面会される方もおられ、踊りを通じて、地域の方と触れ合う場の提供ができたと思います。

③ 入浴介助の見直し

入浴委員会を中心に、入浴の考え方や方法を見直してきました。

実際に職員が入浴体験を行い、機械浴、個浴（一人浴）のイメージや体への負担等を検討しました。

検討結果、家庭と同様のお風呂に入って頂くためにはどのようにすればよいのかを考え、個浴の場合、2人対応の入浴方法へ移行することができました。また、そのためには安全な移乗方法が必要となり、トランスファの勉強会も重ねて行ってきました。

(3) 各委員会の充実

① 委員会の必要性と目的を明確にし、現在の業務、ケアを充実させるため、委員会に於いて専門的知識を習得し、委員が中心となり取り組めるようにしてきました。

ア 口腔ケア委員会

各家から対象者を絞り一年間を通じて経過観察を行いました。洗浄方法やマッサージ方法、その時の状況などを把握することで、より多くの情報を知ることができました。また、委員会独自の食前体操を考え、レクの時間を利用して実施してきました。

イ 入浴委員会

職員の入浴体験から、機械浴の機械音のイメージや水圧による体への負担等から、できるだけ個浴で行い、且つ安心感をえられるような入浴方法が検討され、個々の状態にあった入浴をできるようにしてきました。

始めは、職員間で安全性や効率性等から、個別浴への移行に抵抗がりましたが、個浴はゆっくり向き合える時間があることや、入浴している表情がとっても豊かであることから、介助した職員から「入れて良かった」等と評価が広がりました。

また、自力歩行が可能な方を対象に、一般浴を開放「お風呂の日」とし、一般温泉気分を味わえるように、ゆず風呂で肌と肌のお付き合い交流を図りました。初めての試みで不安もありましたが、お湯に浸かり普段は見せることのない表情が、みられ今後も継続できるようにしたいと思います。

ウ 排泄委員会

排泄環境を整えること（排泄勉強会・体位交換勉強会・排泄アセスメント表作成）に取り組みました。オムツを交換してきれいにするのはもちろん「出すことにこだわる」ことの大切さに気づきました。その人を知ることが大切であり、排泄パターンの把握、その人に合った支援を行うことで快適に過ごして頂けるようにしました。そこで、使用しているパットの種類やコスト面を職員全体が把握でき、一人ひとりに合ったオムツ選びができることで、無駄な使用をなくしてきました。

エ 行事・環境委員会

《行事 お花見会、夏祭り、敬老会、運動会、芋煮会》

次年度より、行事によっては、西・東棟が合同で行われることが最後ということもあり、賑やかに行うことができました。委員のみでは行えず他職種の職員の

協力にて行えました。

行事の情報がはいると、表情は違い、楽しみに待ってくださる様子が伺えます。マンネリした生活に楽しみが増えるように今後も検討していきたいと思えます。

《環境 畑作り準備・後片付け、ワックス掛け3回、カーテン洗濯の声かけ》

今年度より、委員会が声かけをし、職員にて行う内容となりましたが、周知徹底や準備不十分で月遅れになったこともあったものの、年間計画は行うことができました。今後、車椅子・ベッドまわりの清掃に声かけをしていきたいと思えます。

オ リスクマネジメント委員会

毎月のアクシデントを集計し、その起因や時間帯等について職員会議で報告、また、注意内容を声かけしてきました。

月毎にスローガンを立て、普段のケアでも気配りができるようにし、迷惑をかけないよう努めてきました。アクシデント報告が多い内容については、移乗時の事故軽減のため移乗（トランスファ）勉強会を毎月定期的に行うことで、職員の技術向上に繋がりましたが、勉強会の間隔が長くなると、移乗方法を忘れてしまうこともあり、今後も継続事業としていきたいと思えます。

カ 食事委員会

「食べることの楽しみを大切にしていこう」ことを目標に、軟菜食や地産地消の取り組み、行事食、誕生食、出張料理に取り組んできました。特に軟菜食は、今までソフト食に力を入れてきた分、簡単に取り入れることができませんでした。きざみ食は、見た目、安全性を考えたときに、「食欲をそそる」ものではないことから、食事メニューへのこだわりをもつことにしてきました。また、地産地消も、村内の自家販売から購入し、季節が感じられる食材を調理して頂きました。

食に関しては、まだまだ、ご利用者に合った食事内容には難しい面もありますが、次年度では特に食事への取り組みをしていきたいと思えます。

キ 感染症委員会

心配される感染及び感染源、予防等について、その対策等を委員で検討してきました。また、ご利用者はもちろん職員が自ら予防に努め意識できるように、マニュアル作成や、見やすい場所にポスターを掲示し周知することができました。

今後は、感染源（嘔吐物や排泄物）の処理方法等の実技も取り入れたいと思えます。

ク 家長会議

月1回の定例会とし、今年度は、職員の意識向上への取り組みに力を入れ、「言葉使い」「電話での対応」「福祉用具の種類と活用方法」についてのマニュアル作成をしてきました。今までは、各家での現況や取り組みについての相談の場になっていましたが、共有の問題として後退しないように声かけ合い、利用者主体のケアを目指した会議になってきました。

次年度、増床にて職員が増えることもあり、さらに新職員の育成に努めていきたいと思えます。

ケ 家内会議

月1回、各家の家内会議では、10:00～11:30と時間を定め、短時間で検討し合えるようにし、現在の生活、食事、入浴、排泄等に焦点をあて相談してきました。一人ひとりの変化やケア内容の会議を行うことで、職員も個別に捉えることができ、日々のケアに活かせることができました。

また、当月の取り組みが話し合われることで、変則勤務でも職員間の意思統一

ができ、申し送りの徹底にも繋がった。

コ 職員会議

月1回、医務室、厨房、事務室、介護職員の出席にて、「各家の現況報告と取り組みについて」「各委員会報告」「厨房会議報告」「研修報告」「なんでも勉強会」を中心に行い、一丸となって取り組んできました。

サ 家向上委員会

利用者主体の生活ケアを目標に、意識向上・生活支援・食事推進の分野で検討してきました。その都度、施設全体で抱えている問題について、解決策や現在のケア維持、向上にむけ後退しない検討会議にできました。

職員においても働きやすい環境づくりにし、共に安心して過ごせるように努めてきました。

また、家向上委員会での決定した事項については周知徹底し、全職員が取り組める方向を導きだしてきました。今後も、施設全体への広い視野で物事が判断できるようにし、生活の場への取り組みをしていきたいと思いをします。

《一年を振り返って》

各家で事業計画を立て、如何にご利用者と過ごし、どのように支援していくかのケアに心掛けてきましたが、まだまだ、申し訳ないと思える場面が数多くあります。

当施設を選んできて頂いたことに感謝しながら、「この施設を選んで良かった」と思って頂けるように、介護職の原点である「その人らしい毎日」「自宅に居た時と同じような暮らしを」「人生の最期まで、あたりまえの生活を」をごく普通にできるよう、今後も取り組んでいきたいと思いをします。

1. 生活全般について

- ① 家目標は「寄り添い上手」になることであり、ゆったりと楽しめる生活を目指すことでした。

特徴をつかむことができるにつれ、隣に座ってゆっくりと話をする時間が増えたり、家内でのレクを行うことができました。しかし、時には多動者の対応に追われ、他の方の訴えに答えられないこともありましたので、他の職員の協力を得ながら柔軟な対応ができればよかったですと思います。

- ② 方針については「ご家族が気軽に立ち寄れる家を目指す。」でした。

誕生会の時には、半数のご家族の方が来所され、一緒にお祝いすることができました。その時に近況を報告させて頂くことで、安心されて帰られていました。しかし、ご家族の方だけで過ごせるスペースがなかなか設けられず、居室での面会が多かったように思えたため、次年度はスペース作りを早急に行いたいと思います。また、写真撮影がなかなかできず、アルバムを作成することができなかつたので、皆さんの素敵な写真を1枚でも多く撮影し、ご家族の方に見せたいと思います。

- ③ 「尊厳とは何か」を考えながら、今、何をしたいのか、何をしたいのかを知るため耳を傾けてきましたが、その意見等をまとめ検討する機会を設けることが難しく反省する点でした。しかし、日々の業務については、職員間で意見交換をし、業務を見直しながら一緒に過ごすことができたと思います。

- ④ 8月8日に永眠されました方で、最後まで本人らしい表情がみられ、息を引き取る際に傍で看取ることができました。とても悲しい時間ではありましたが、最後まで一緒に過ごせたことを嬉しく思います。また、8月28日に永眠されました方も、亡くなる前に、ご家族の方が傍で声を掛け、家族が持って来てくれたホームビデオを観ていました。

2人との悲しいお別れがありましたが、その時の悔いた思いを忘れずに、これからも他のご利用者に接していけたらなと思います。

2. 食事について

- ① 一緒に料理を作ることはできませんでしたが、頂いたふきやわらび、柿などの皮むきを手伝って頂けたことにより「穫れる時期になったんだな」「干したら美味しいな」などの感想があり、季節感を味わって頂けたと思います。

- ② あるご利用者で、水分摂取が難しいとの引き継ぎから始まりました。噛んで飲み込めるようにするため、寒天ゼリーで硬さを何度か変えながら対応し始め、また、味や食感ともに飽きてしまった時には、ポカリゼリーに変更し、その後“ゴクッ”とは飲み込まれないものの、少しずつ飲んでいることに気づき、補正水を飲んで頂けるようになりました。食事もたくさん噛むという動作がないと飲み込まないことが分ったことから、お粥ではなく常食に変更し、味をつけるとよく食べて頂けたり、食事が進まない時には、手にバナナやパンを持たせることで自力摂取に繋げ、どうしても食べて頂けない時は、補助食品で対応してきました。好きなものは何か、口をあけることが多い時間帯はいつか、一口目はどんな物から食べてもらったらいいのか等を常に話し合い、また、ご家族の方から話を聞いたことにより、経管栄養になることなく食事を摂って頂けています。

3. 排泄について

普段ベット上で排泄交換をさせて頂いているご利用者が多いのですが、排便の兆候が見られた際にはトイレに座って頂き、トイレで排便を済ませることで、爽快感を持って頂けたと思います。また、こまめに陰部洗浄を行うことにより、尿臭を防ぐことができたように思います。排便があった際には、臭いがフロア内にこもってしまうことが多かったので、換気などで対応してきました。

皮膚の状態観察により、早期対策が取れ、悪化の防止に繋がりました。

4. 入浴について

- ① 希望に沿った入浴方法はなかなかできませんでしたが、一般浴でハンモックのように2人で対応していた方に対して、個室ではどうかとの試みを行うことができました。検討の結果、本人の拘縮の状態から機械浴になってしまいましたが、他のご利用者に対しても試みてはどうかとの考えられる機会に繋がりました。
- ② 乾燥肌の方には保湿クリームで対応することができました。

5. 行事等の取り組みについて

- ① 誕生会では、ご家族の方と一緒に外出し、大好きなお寿司を食べに行くことができました。奥さんの前で少し緊張していた様子で、いつもの食欲がなかったようでしたが、とても満足されていました。また、ある方は毎日のように生まれ育った大倉に行きたいとの話が聞えてきたことから、ドライブを計画していましたが、天候などに影響され外出することができず残念でした。
ホーム内で誕生会を開いた際には、カラオケだけではなく、職員の踊りなど、見て楽しめるものがあるといいなと感じました。
- ② レクの際には、皆さんが楽しく参加することができ、笑顔がたくさん見られ嬉しい場面が多々ありました。
- ③ 暖かい時期にはドライブや外気浴を積極的に行ってきたことにより、外出する機会が少ない方にとっては、季節を一番に感じられる時間ではないかと思いました。今後少しでも多く時間をつくり楽しんで頂きたいと思いました。

6. 一年の反省

- ① 入居して日も浅い、問題行動のあった方の対応に追われながらの始まりでした。帰宅願望が強く、何度か外へ出て行かれ車で迎えに行ったり、朝から晩まで何度も棟内を歩き回り、入浴の拒否や介助に対しても拒否が強く、声を掛ける度に怒られたり叩かれたりと笑顔を見る日は殆どありませんでした。しかし、今では逆に笑顔がたくさん見られ、手招きで職員を呼んでくれたり、手を繋ぐことができるようになりました。これはきっと、なじみの関係ができ、1年間ケアに苦労しましたが、その苦労も良い経験となり、今後さらに頑張ろうという思いになりました。
その方のために、自分がどこまでできるのか、今、何ができるのかを常に考えながら、今後のケアを見直していきたいと思います。

1. 生活全般について

① 家目標だった「チームワークでご利用者と共に安全に楽しく生活できる家」に沿って1年間取り組んできました。くつろぎの家から移動された方も、最初は家になじんで頂けるのか不安でしたが、看護職員との連携もあり歩行訓練を頑張って行ったりすることで、少しずつ打ち解けることができました。

また、他の方もマイペースに過ごされていました。また、ご利用者同士の大きなトラブルもなく穏やかに過ごすことができました。

② 入院されていた方が退院され、その後、少しずつ良くなっていく過程が職員にとって、やりがいと喜びになりました。特に、退院後、多動な様子が見られベッドからの転落を防ぐために、居室全体にマットを敷いたり、本人の動きを妨げないよう工夫をしたり、職員同士細やかな目配りをしながら安全に生活して頂けるよう努めてきました。床からの起き上がりや車椅子への移乗には苦労しましたが、少しずつ以前の状態に近づいて頂けるよう諦めず日々のケアにあたり、畳からベッドに変更できるようになり、また、立ち上がりも徐々にできるようになりました。

更に、退院後は殆ど全介助での食事でしたが、今では、ムラはあるものの自力摂取ができるようになってきました。

また、職員が気をつけてきたのが声かけです。たくさん声かけをすることで、ご利用者から話しかけてきて下さるようにもなりました。毎日、少しずつの取り組みがとても大切なことだと学ぶことができました。

2. 食事について

① 美味しく、無理なく食べて頂けるように、その都度、食事形態の見直しを行い食べて頂けたと思います。また、体調に合わせ時間をずらすなどの対応もできたと思います。

② 家内で作るという目標を立てたまましたが、減量の方や食事制限のある方もいて、なかなか思うようにできませんでした。しかし、厨房の方と協力し、出張料理をしたところ、職員もご利用者も美味しく、そして楽しく食べることができました。

③ 退院後、介助で摂取されていた方にも、あきらめず声かけを行い、今では殆ど自力摂取ができるようになってきた方もいます。

④ 摂取量が少なく、なかなか食べて頂けない方には、曜日別にその方の好きな麺類を出して頂き、以前に比べ、今では殆ど全摂取されるようになりました。

3. 排泄について

① その都度、個々に合ったパットの見直しができるようになりました。

② 退院後、カテーテルが外れ、トイレ介助ができるようになった方もおりました。本人の訴えを大事にトイレ誘導を行うことで、自力排泄の嬉しさを職員も知ることができ、今後も継続していきたいと思えます。

③ 尿臭のある方も洗浄により緩和されました。

4. 入浴について

① 本人の希望に沿いたい、意思を大事にしたいという職員の思いが一つになり、今まで一般浴ができなかった方の他の入浴方法を可能にできました。

退院後、立ち上がりが困難で、機械浴での入浴を余儀なくされていましたが、本人からは「大きい風呂に入りたい。」という訴えがありました。そのことでケア会議を繰り返

返し行い、また、本人の意欲もあり少しずつ立ち上がりも可能となったことから、本人の希望に沿うことができました。「いい湯だった。」の一言に、とても喜びを感じました。

- ② 皮膚トラブルは、乾燥防止に保湿クリーム、馬油などで対応し、緩和されたと思います。

5. 行事等の取り組みについて

誕生会では、昨年より多くのご家族の方に参加して頂き、中には涙を流して喜んでいただご利用者がいました。普段は、なかなかお話しできないことも、ご家族の方と一緒にゆったりと過ごして頂き、コミュニケーションも多く取れたと思います。都合によりご家族の方が来て頂けなかった時には、職員と家のご利用者で心をこめたお祝いことができました。他の家の職員の協力もあり、踊りなどを披露することで、多くの笑顔を見ることができました。今後も続けていきたいと思っています。

6. 一年を振り返って

- ① 全体的に大きな事故、トラブルもなく、安全に過ごすことができたと思います。
- ② いつも職員とご利用者の笑い声が聞こえていたと思います。その分、ご利用者が入院された時には、自分の家族が急にいなくなってしまう寂しさを感じ、改めて日々の生活の大切さを知ることができました。また、少しの変化にも気付けるよう、「いつもと違うのではないか」と見つめていくことも大事ことだと思いました。
- ③ ケアを行うためには、チームワークが重要なことであり、互いに声をかけ「お互いさま」という気持ちで助け合うことが、とても大切なことだと改めて痛感しました。
- ④ 居室の整理、整頓、アルバムの整理、部屋の模様替えなどがあまりできなかった。日々の忙しさの中にも時間を見つけ取り組めるようにしていきたいと思っています。
- ⑤ 言葉づかいでは、一部、強い口調で声かけをしてしまったこともあったと思う。方言でも注意が必要。ご利用者をよく知り、尊敬の気持ちを大切にし優しい声かけをできるように努力していきます。。

1. 生活全般について

家目標でもあった「終末期の看取り介護をご家族の方と一緒にできるようにする」でした。ほほえみの家では5名のご利用者さんが永眠されました。

4月には入院中の病院で永眠された方が1名。嚥下が困難な状態でも食べることが好きな方でした。美味しそうに食べてくれた時の笑顔がとても素敵で「最期まで口から食べて頂きたかった」と思いました。

5月には家で永眠された方が1名。その日は、意志疎通がなかなか取れない中で朝の声かけに頷いてくれました。何の変わりも無かったのに急変されてしまい驚きました。食事の時、なかなか目を開けてくれず、いろいろ工夫しながらやっと目を開けて貰い食べて頂きました。食事介助の難しさ、食べる事の大切さを改めて感じました。

6月には病院で永眠された方が1名。突然体調不良にて入院されその日に永眠されました。やはり意思疎通が取れない方でしたが、耳元で大きな声で話しかけると話をしてくれるようになり、声を聞けることが楽しみになっていました。その日も笑顔で話をしてくれたことがとても嬉しかったです。お二人にはコミュニケーションの難しさを改めて教えて頂きました。

7月には2名の方永眠されました。お二人とも数か月前から看取りケアに入り、ご家族の方と一緒に看取ることができました。1名の方の最期は、ほほえみの家会議の時でした。眠ってばかりいりましたが、時々声を出し返事をしてくれた時は「今日、しゃべったんだよ」と皆で喜び話をしていました。全員揃った日を選んでくれたことにとても感謝しています。もう1名の方の最期は、ご家族の方と一緒に排泄交換をして頂きました。ご本人も嬉しかったと思います。その後、直ぐに目を閉じられてしまいました。最後に目を開けご家族の方にお別れをし、見守る中永眠されました。その姿を見た時は悲しい気持ちではなく心が穏やかになったのを今でも覚えています。「本当にありがとう」と言う気持ちで一杯でした。

お二人の頑張っている姿を見て「最期まで、痛みもなく安楽に過ごして頂きたい」と言う思いでした。「自分たちが悔いの残らない介護をしよう」そう思いながら介護職員一同ケアに取り組んできました。看取りケアができたことで、ご利用者さんと一緒に過ごせたことにとても感謝しています。心から「ありがとう」それぞれ皆さんに“生きる”ことの大切さを教えられ、一日一日、その時その時のケアがより大事だということを知ることができました。

新しく入居された方をできるだけ早く知り、信頼関係を築けるように努めました。また、個々に合ったケアをすることで、その人らしさを引き出せるようにしてきました。

行動や言動に介護職員を楽しませてくれたり、喜ばせてくれたり、とても和ませて頂きました。炬燵で一緒に過ごすことで会話も多くなってきたように思います。ご家族の方が面会に来た時には生活の様子をお知らせし、絆も深めるように努めてきました。また、面会も多くなってきたように思います。

レクリエーションに参加することで、楽しみ、他の家との交流を図り、気分転換をして頂きました。また、状態を見て居室で過ごされている方も参加することで雰囲気味わって頂くこともできました。いつもとは違うご利用者さんの表情を見ることができたことで、やりがいや喜びに繋がりました。

2. 食事について

食事を美味しく、満足して頂くようにその都度食事形態の見直し、他職種と連携を密

に取り工夫してきました。口から食べて貰うことを大切に個々に合わせた口腔ケアを実施し、口腔内の状態を知り、唾液を促し、且つ綺麗にしておくことで食べる意欲を引き出すことができたと思います。

なかなか食べてくれない方には、好きな物を食べて頂くことで、少しずつ食べて頂き意欲を引き出してきました。

血糖値が不安定な方には、他職種と密に連携を取ることで健康管理に十分気をつけ、且つ、食事にも満足して頂けるように工夫してきました。特に皆さんと同じ物を食べ“食”を満足して頂き、安定した生活が送れるように意識してきました。

3. 排泄について

排泄パターンや皮膚の状態を知り、常にパットの見直しや皮膚トラブルを防ぐことができました。大きな成果としては、今まで自力排便ができなかった方がトイレに座ることで、自力排便を促すことができたことと、下ズボンを着用することで冷え防止となり、尿量が減りパットを小さくでき、無駄をなくせたと思います。

4. 入浴について

本人の希望に添い気持ち良く入浴して頂けたと思います。入浴剤を使用することでリラックスして入浴し、皮膚の保湿もできました。季節に合った入浴剤を使用すればもっと良かったように思いました。また、特浴で入浴されている方の皮膚の保湿がなかなかできなかったように思います。

5. 行事の取り組みについて

誕生会は、ご家族の方と連絡を密にしたことで殆どのご家族の方に参加して頂き、多くのご家族に囲まれ和やかにお祝いすることができました。囲まれてお祝いをして頂いている時の表情はいつもと違い本当に嬉しそうでした。“家族のすごさ”を改めて感じることで、感動させられる場面も多々ありました。また、他の家のご利用者さん・介護職員・他職種の職員の協力を得、歌や踊りでお祝いすることで、ホーム全体でお祝いすることができたように思います。

ドライブや外出で気分転換を図り、楽しんで頂きました。他の家と協力し、もう少しドライブに出かけられるように計画すれば良かったように思いました。

ホームの行事・夏まつり・敬老会・運動会はご家族の方へ手紙などでお知らせし、参加して頂き一緒に楽しく過ごして頂きました。ご家族の方が来られないご利用者さんには介護職員が寄り添い過ごすことで穏やかに楽しく過ごすことができたと思います。いろいろな行事を通して元気になり、また意外な一面を見せて頂きました。これからもできるだけご家族の方に参加して頂き、楽しく過ごして頂けるような工夫をしていきたいと思えます。

6. 一年を振り返って

今年度のほほえみの家ではご利用者さんの入・退居、家間の異動等がありましたが、その都度、家会議などで穏やかに安心して過ごせるように、また、居心地の良い居場所づくりを考えてきました。殆ど居室で過ごされている経管栄養者の方が一日一回離床し皆さんと一緒に過ごすことで、発語があり、表情も豊になり変化が見られるようになりました。夜間帯眠れない方には日中の過ごし方を工夫し、少しでも安眠して頂くようにしました。夕方不穏な方の側にいて話をすることで安心して頂くようにしました。

ご家族の方の面会はご利用者さんにとって楽しみです。皆さん笑顔で話をされています。

した。特に、いつも眠たそうにしている方が、ご家族の方が面会に来ると表情も良く、積極的に話をしている姿が印象的でした。毎日の生活の中で、しぐさや変化を見逃さず、ご家族の方にお知らせし、少しでも多くコミュニケーションを図り信頼関係を築き、一日一日を大切に楽しく、笑顔で過ごして頂くと共に、これからも面会に来やすい環境づくりをして行きたいと思います。

異動等もあり、介護職員同士の連携や統一した個別ケアをすることの難しさを感じることもありました。ひとり一人の個性があり、色々な捉え方もあり、同じように伝わらないことがありましたが、プライバシーを一番に考え“自分だったら？・・自分の家族だったら？・・どんなケアをして欲しいか？・・どんな言葉をかけて欲しいか？・・”を常に考えてケアにあたってきました。“まごころ”を込めて接することが本当に大切なことだと思いました。介護職員が一丸となって協力し、信頼し合い、楽しく仕事ができるようにして行きたいと思います。

1. 生活全般について

(1) 家目標の「ご利用者、家族と共にやすらげる居心地良い空間・環境・雰囲気づくりに努め一緒に時間を共有する」ことについて

- ① 日々の生活を写真に残し、ご家族の方が見えた時、わずかな時間でしたが一緒に見て生活の様子を伝えることができました。
また、都合によりお越し頂けないご家族の方へも、手紙に写真を載せ説明を添え、生活の様子を分かるように配慮できたと思います。
- ② 大勢で来られたご家族の方には、家族宿泊室を利用して頂き、家族だけの時を過ごせる環境もセッティングでき良かった。
- ③ 全体のレクリエーションには、できるだけ参加して頂き、楽しみを共有することに努めてきたところ、生き生きとした表情を見ることができました。
- ④ 外気浴をしながらのお茶会、また、ショッピングや外食に4名の方が出掛け、特に回転寿司屋では思い思いに好きな物を食べ、その後、嗜好品の買物を楽しまれ「また行くべない」と満足して頂きました。
- ⑤ 釣りが趣味であるご利用者と、それに付き合った別のご利用者が、職員と一緒に厨房手作りのおかずと、ゆとりの家手作りの混ぜご飯のおにぎりを持って「あいの沢」に釣りに出掛けました。好きな物に夢中になっている時の表情は、目がキラキラ輝いていました。3時間くらいではありましたが、帰る間に1匹釣れた時の嬉しい表情が印象的でした。早速、持ち帰り、から揚げにし少しずつご賞味しました。寒い時期になってしまったことから、次年度はもう少し早めに計画を立て温かい時期に行ける様にしたいと思います。
- ⑥ 塗り絵を試みたところ、好評で、何名かの方は何枚も挑戦し、21年度の1年間のカレンダー付き塗り絵を完成することができました。でき上がった物をご自分のお部屋に飾る方や、フロアにも合作のカレンダーを飾りました。また、家の表札作りもされ完成した達成感と喜びを味わうことができたようでした。
- ⑦ その他、家内でのレクでは、宝釣り、カルタ取り、生オケ、カラオケ、旬の食材での料理など、毎日とはいきませんが、わずかな時間でも職員のユニークな発想や特技、趣味などを生かし、共に楽しみながら、生き生きとした生活を送って頂けたと思います。

(2) 方針の「ゆっくりと一緒にお茶をしながら、ひとり一人の要望・不満に耳を傾け、今本人がして欲しいことや楽しみを受け入れ共感する」について

- ① 業務に追われ、なかなかゆっくりとお茶をしながら、その人の思いを知るまではいきませんでした。一部の方が不満を溜め込み、ある日、爆発したということもあり、先入観で見えてはいけません。また、平等に接しなければならないと反省させられました。

2. 食事について

- ① 状態変化に合わせ、随時食事形態を見直すことができたが、嚥下困難な方でも、お粥だけでは満足しない時もあり、看護職員との連携により、少しでも常食を添えることで満足されることもありました。また、副食ではキザミ対応ですが、常食の方のおかずを見て自分のとは違うと納得されない時もあり、圧力鍋で調理された、煮物等、少し形のある物を添えますと満足して頂きました。見た目も大切だと改めて感じさせられました。
- ② 共に、実際に手で触れて五感を刺激しながら、旬の食材を調理し食べることができ

ました。また、ご家族の方が「ふきや里芋の茎」を持って来て下さり、それを目の前で調理することで生活観が見えて良かった。

今後も体調変化に伴い、柔軟に対応し、個々の状態に合った、嚥下し易い姿勢を見出し、いつまでも口から安全に美味しく摂取できるケアに努めたいと思います。

3. 排泄について

- ① トイレ汚してしまう箇所に布を準備して置き、随時掃除をしたり、また、お部屋で安楽尿期を使用されている方の換気をまめにしたりと、プライバシーにも配慮しつつ、消臭に努めてきたところ、以前ほどの臭いはなくなりました。

自立支援も大切にしていることから、自力で排泄され衣類を汚される方も多く見られるようになってきたので、尊厳に配慮しつつ今後も随時こまめな交換を継続していく。

- ② ヨーグルトを食べるようになってから、便通が良くなった方も数名みられました。

3. 入浴面について

- ① シャワー浴利用の方の配慮として、少しでも足から温まって頂けるよう、シャワーと同時に入浴剤を入れた容器で足浴も行なったところ、より満足して頂けた。乾燥時期には、保湿クリームの対応ができた。

- ② 体調変化に伴い、入浴日の変更を、各家への連絡ミスから迷惑をかけてしまったこともあり、今後は連絡を密にしたいと思います。

4. 行事等の取り組みについて

- ① 今年度は、誕生会、行事の参加の呼びかけを積極的に行なったことにより、誕生日では、自宅へ帰られた方が3名おりました。なかには、いつかは一度家に連れて帰りたと思っていたが母の現状を見ると連れて行っても、自分でどのようにしたら良いか不安だったと話されており、こちらから食事等の準備する物等を事前に説明し、安心して帰られるように配慮したところ、「色々教えて頂いて良かった、かあちゃんのこと連れて帰ることができて良かった。」と喜んで下さいました。少しでも、お役に立て良かったと思います。

- ② あるご利用者の方は、家族と外出され自宅付近までドライブをしてから戻って来られ家で誕生会を行いました。いつも冗談ばかり言っていますが、その時は特別な日なのだ意識されたのか、最後にマイクを持ちしっかりとお礼の言葉を述べて下さいました。また、ご利用者同士で、些細なことからトラブルとなる事もありますが、誕生会の時は、ひとり一人しっかりと誕生者へお祝いを述べたり、毎回のように扇子を持ち踊って下さる方や、歌でお祝いをされる方も多く、心温かい一面を垣間見ることができ感動しました。

誕生会に参加された殆どのご家族の方に「このような温かい誕生会をして頂いて感激しました。」との言葉も頂き更に嬉しく思いました。

- ③ ある方が誕生日に自宅へ帰り、家の中へ入りると「我が家だ」とほっとされたのか、涙ぐまれ喜びをかみしめて来られた様でした。また、自宅では奥さんの手作り料理で待っていて下さいました。

数名ではありますが、ご家族や本人の思いを少しでも叶えることができ、私達も沢山の感動を頂いた1年でした。

- ④ 誕生会でホーム（家）に来て下さったご家族は7家族と、年々参加が多くなってきていることは大変喜ばしいことだと思います。

また、誕生会や行事は皆さんのご協力の下、盛り上げることができました。改めてチームワークが大切だと痛感しました。

一方、ご家族の方が来られない方に対しては、手紙やプレゼントなどを贈ってもらえるような配慮も必要だったと思いました。今後は、ご家族の事情も踏まえながら、なかなか来られないご家族の方と密に連絡を取り、ご理解を頂きながら、絆を深めて頂けるよう配慮に努めたいと思います。

5. 一年を振り返っての感想

① 反省として…

一年を振り返って、ゆとりの家のご利用者も多いため、職員がケアに追われる中、気持ちに余裕がなくなり、ついつい荒い口調になることもあり、尊厳に欠けた言葉づかいをしてしまったこともありましたので、感情のコントロールができるよう努力したいと思います。

② 感想として…

中でも心に残ったことは、終末期であった方が体調の良い時期に、自宅へ帰ることができ、ご本人の言葉で「いいたてホームに来る時に、もう家には帰らないと心に決めてきたが、連れて行ってもらって本当に良かった、感謝するよ、有り難う。」と言って頂き、微力ながら心の奥の思いを叶えて上げられたことが、私達の心の支えになりました。

しかし、息を引き取られる時に、ずっと泊まっていた夫の身体に配慮し、帰って頂いたところで亡くなられたことについては、果たしてこれで良かったのか…と落ち込んだこともありましたが、最期まで家庭と同じように、家族が寄り添うことができる環境に配慮できたことは良かったと思いました。今後も、このような自然な光景が少しでも多く見られるよう支援をしていきたいと思います。

また、今の状態を維持していけるよう工夫し、ケアに努めて行きたいと思います。

1. 生活全般について

家では3名のご利用者が退去され、新たに3名の方が入居されました。

3ヶ月程入院されたご利用者を、皆で何とか本人らしく過ごして頂こうとスタッフ一同頑張ってお世話してきましたが9月突然急変し永眠する。

シーンと静まりかえっているところへ、新しく入居者された方がとても明るく、ひだまりの家を楽しい生活の場へと変化させてくれました。

また、ある入居者は、あんなに食べることが好きだったのに、食べてももどしてしまい入院となる。暫くしてから退院となったが、調子の良い日は看護職員と協力し、口から食べて頂くことを忘れないよう努めてきた。ベットごとフロアに移動し過ごされていても介護・看護職員が通るたびに声をかけてくれ、最後まで良い表情を見せてくれましたが12月にご家族に見守られ永眠されました。息子さんの「かあーちゃあーん」といった最後の言葉がとても印象に残りました。ご家族の方は2週間居室に泊まり一緒に過ごして頂いたことで本人もとても喜んでくれたのではないかと考えています。

皆で余韻に浸っている間もなく、次の方が入居となる。

ショートステイ利用時の時と違い、とても朗らかで更に家内が明るくなり、他の方とすぐ意気投合。職員も2人の明るさにとても癒され救われた思いで毎日を過ごさせて頂きました。

入退院を何度か繰り返していた方が、熱を出てしまい再度入院され、今でも「おう」と呼ぶ声が聞こえるような感じがします。本人らしく生きること、それに応えるようなケアとは？と、思い知らされる最後だったのではないかと感じています。

また、あるご方のショート利用中は元気でいましたが、症状の進行にて直接的ケアが必要となって入居される。あの頃の本人を思い出して頂こうと声掛けやジェスチャーを利用し、ケアを行っていく中で、本人が時々頷いてくれると、嬉しく皆で喜び励ましました。

ご家族の方との繋がりをもって頂こうと、共同作業のちぎり絵を準備しましたが、忙しい時間の合間の面会に、思うように進まずスタッフとご利用者が行なうことが多かったようです。今後もゆっくりと時間をかけて仕上げて行きたいと思えます。

ティータイムにパブリックスペースを活用し、音楽を聴いたり天気の良い日は外気浴をしたり、桜の花見を兼ねたドライブを行ったりと季節感を感じて頂くよう皆で協力し、喜んで頂くことができたと思えます。寒くなってフロアに炬燵を2箇所セットし、ご利用者に合った過ごし方をして頂き、ゆったりと穏やかに過ごして頂けたのではないかと考えています。

2. 食事について

目標であったおやつ作りは、あまりできませんでしたが、食事の間は唯一ゆっくりと食事をしながら会話をすることができたと思えます。また、常に食事形態を見直すことにより、食の楽しみを感じて頂けたのではないかと考えています。

出張料理の日には、皆さん楽しく美味しそうに食べられ普段あまり食の進まない方も全量食べられたとスタッフ皆なで喜び感動しました。

3. 排泄について

排泄パターンを知り、随時パットの見直しと交換回数を増やしたことにより、皮膚トラブルを未然に防ぐことができた。また、排泄用品の勉強会に参加したことでスタッフ

の知識向上に繋がり皮膚トラブルを防ぐことができたと思います。現在は皮膚のトラブル者もなく快適に過ごして頂いています。

4. 入浴について

入浴委員会の体験後の情報を聞き、私たちは家内のお風呂で個々にあった安全で安楽な入浴方法の統一を目指し入浴体験をしました。結果、個別浴槽は負担が少なくゆったりと入って頂けることを知り、更に全員のご利用者をどのようにして入れられるかを勉強することで、知識向上に努め、他の家の職員と協力しながら、現在では全員が個別浴槽で入浴しています。

入浴の間、表情や状態の把握ができ、会話時の笑顔や気持ちよさそうな顔を多く見ることができ、私たちも楽しくケアすることができました。現在、入浴直前まで抵抗される方に困難しており、気持ちが落ちついている午前に入って頂き様子を見ているところです。どのように対応したらスムーズにお風呂に入って頂けるかが今後の課題となっています。

5. 行事等の取り組みについて

誕生会をご家族の方と一緒に過ごして頂くという今年度のホームの計画に、家族会で来所された息子さんに思い切って話した結果、快く受け入れて頂き、第一号として自宅へ帰られた方が、家に戻ってくるため職員が自宅へ迎えに行くと、普段と違う本人の顔を見ることができた感動し話してくれた時スタッフ一同涙ぐみ喜びました。

短い時間でしたが自宅で過ごされた方が、近所の人が大好物の南瓜の煮つけを持参してくれ、美味しそうに食べながら会話されたことを家族から聞いた時、無理を承知で、外出できるようお願いして良かったなと思いました。

当初より自宅で過ごして頂きたいとのご家族の希望があり、ご家族の方の対応で帰るときの顔は普段みられない良い表情をされていました。プレゼントを頂き疲れた様子も見せず笑顔で戻ってこられました。

あるご利用者の誕生会のときは、家内で行ないましたが、食べることができずどのようにして行なおうかと戸惑いましたが、ご利用者全員と握手しお祝いの言葉を頂くと本人も涙ぐみ感動していました。

息子さん夫婦に囲まれぼたもちケーキでお祝いされたご利用者。背筋を伸ばしシャキットされ淡々と会話され、とても明るいカラーが出ていました。

横浜に居る息子さんに連絡がとれず戸惑ってしまいましたが、誕生日当日知人とお孫さんが着てくれ嬉しくて涙ぐんでいました。甘い物が大好きなのでプリンでお祝いし、お孫さんの晴れ着姿と上手な歌でお祝いをしてくれました。

夏まつり、ご利用者とスタッフ全員で仮装し大いに盛り上がりました。ご家族の方も普段と違う姿をみて皆で笑っていました。評価としては、準優勝を頂き家に帰ってきて再度盛り上がり皆で楽しい時を過ごしました。

運動会では、どうみてもかなわない家対抗の玉入れで、最後にミニパンを籠に入れることで皆からの笑いと勝利を頂き大いに盛り上がりました。

敬老会では、家からの出し物で皆でできるものは何がいいか、なかなか思いつきませんでした。ご家族の方とご利用者が触れ合うことができるものが良いと思い「肩たたき」を選びました。会場の人達に歌って頂きながら、ご家族の方に肩たたきを行なって頂いた。今年の行事は、沢山のご家族の方に参加して頂いたことにより、スタッフ一同ご家族の方との絆を強く感じる事ができたと思います。

6. 一年を振り返って

一年間色々な取り組みに意見を出し合い、試行錯誤し努力を惜しまず随時改善してきました。結果、ひだまりの家らしいカラーを出すことができたと思います。ご家族の面会も多くご利用者の情報を聞くことができ、それをステップに色々なことに対応しご家族の方との繋がり、そのことに対してのスタッフの関わりが大事なことだなと感じ取りました。個別ケアとしては、まだまだ接しかたが足りないと思いますが、業務優先でなく「いま」を一番に考え、本当の家族のように接していけるよう、今後も支援していきたいと思います。

1. 生活全般について

- ・ 自分のできることは、それぞれ手伝って頂いています。例えば、モップ掛け、夏場は植物等に水掛け、洗濯干しや洗濯たたみ、お絞り丸め、新聞たたみ等です。一回の声掛けではなかなか理解できず、数回声掛けする時があります。職員がサッと業務として済ませてしまえば早いのですが、家目標である「ご自宅での生活と変わらない生活」をして頂くために、自分のできることを生活の一部として手伝って頂きました。
- ・ テレビ台の高さを上げたことにより、炬燵が邪魔にならず皆さん良く見えたようです。また、テレビの傍に炬燵があることで自然に炬燵の周りに集まりました。（冬は暖かな炬燵で暖をとって頂きました。）自然に会話も弾んだり、他の方が後から炬燵の所に行くと「早く、入れ」「あったかいから」と気遣う温かい言葉や思いやりのある言葉をかける様子も見られました。
- ・ 増築工事が始まり、中庭の植物をフロアに移動しました。外の景色が何も見えなくなったくつろぎの家にとってはとても窮屈でしたが、フロアに植物があることによりホッと一息でる空間を作ることができました。そして、面会の方々にも「すごい、植物だね」と関心が植物の方に向かれることにより、フロアの窮屈さを感じさせることなく緩和できたと思います。

2. 食事について

- ・ 個々の食事時間や形態により、その方に合った食事を提供することができました。
- ・ ご家族の方や職員が持ってきた食材を使い「季節感」「家庭のぬくもり」「昔懐かしい料理」を味わって頂きました。
- ・ 食前体操は、食前になかなか行うことができませんでした。レクリエーションや時間に余裕のある時に取り入れることができれば良かったと思いました。

3. 排泄について

- ・ 季節やご利用者の状態を把握し、パットサイズをその都度変更し個々に合った排泄時間やパット使用することにより不快感の軽減に努めることができたと思います。

4. 入浴について

- ・ 個浴は、プライバシーが守られているためゆったりと入浴されています。また、歌を唄ってくつろいでいる方もおります。
- ・ 4月の取り組み時点では、特浴者4名おりましたが、家（居室）の移動の方1名、身体負担軽減のため機械浴から個浴に3名の方が変更されました。変更された3名の方は、他の家の遅番の協力を得て二人対応にて入浴施行しています。

5. 行事等の取り組みについて

①お誕生会について

- ・ 今年度目標である「ご家族にも声掛けをして、思い出に残るように工夫をし、家全体でお祝いをする」は、各担当がご家族の方と連絡を密にとってきました。1件の方のご家族以外（都合により急遽来所できませんでした。）は、全員のご家族がお祝いに駆けつけて頂きました。今まで、「仕事で忙しくてなかなか行けない」と言われていたご家族の方も、本当に「5分」の参加でしたが、ご利用者の表情はとても嬉しそうでした。

また、誕生日を早めてお祝いをした方もおりました。親を想う気持ちが、他のご利用者や家職員に伝わり、涙・涙のお誕生会となりました。

ご家族と一緒に過ごす誕生会は、特別の日となり誕生会を通して絆が深まった思い出に残る誕生会をすることができました。

- ・ 職員の協力もあり、休日の時や遅番の時は早めに出勤して自主的に誕生会の準備手伝いをして頂きました。また、積極的に踊りやカラオケ、生オケ等で雰囲気盛り上げて頂き、とても賑やかな誕生会をすることができました。

本当に、職員4人もご利用者と一緒に記念撮影することができ、職員にとっても一人ひとり思い出に残る誕生会だったと思います。

②「家」の行事

- ・ 4月の花見から始まり、7月の流しそうめん、9月の秋刀魚バーベキュー、11月のほうとう作り、2月の恵方巻き作り等をしてきました。ご利用者と一緒に何かすることは大変でした。でも、くつろぎの家職員の団結力・協力・協調性により、とても楽しく行事を行って来ました。そして「職員が楽しむ」ことも忘れていなかったようです。他の家との行事も楽しいですが「家」で楽しむ行事もコミュニケーションを図るためには大事なことだと思いました。

③「他のユニット」との行事

- ・ 8月の暑い夏中庭で花火、12月の年忘れに忘年会等、他ユニットと協力しご利用者の喜ぶ「笑顔」を見たいと思い実施しました。花火では、「孫」と一緒にしたことを思い出された方、瞼に懐かしい表情が伺われた方がおりました。移動や準備に費やす時間は多かったのですが、無邪気な表情を見ることができ嬉しい思い出でした。また、他の家の方と交流を深めることもでき良かったと思います。

④「西棟」の行事

- ・ 6月の柏餅づくり、7月の流しそうめん、8月の岩魚バーベキュー、12月の蕎麦打ち等は全ユニットの協力により実施しました。職員同士も自然に話し合いができ準備等を行うことができました。また、ボランティアの方々の協力は大変助かり皆さんもとても満足されていました。

6. 一年を振り返って

- ・ 病に伏せられますと、「あれ、ここの人は」と尋ねて心配で様子を見に行かれたり、ご家族の方に声を掛けたりと、本当に家族と一緒にだと感じさせられました。お別れ会でも、いつも一緒に過ごしていた方であることが分かれると「涙」を流された方もおり、本当に一緒に暮らす空間は大事であると痛感させられました。また、職員もご家族とコミュニケーションを十分にとることができご家族と触れ合うこともできました。
- ・ 体調不良者の方が現在もおりますが、ご家族の方とコミュニケーションを密にし、「ご家族でないといけないこと」「悔いのないケア」「職員の報・連・相」により職員間の連携を図っています。
- ・ 増築に伴い中庭の工事が始まり、家フロアでは音がうるさく、太陽の光が入らずに大変な生活でした。ストレスがたまらないように、時々、昼食・ティータイムをすずらんホールにて召し上がって頂きました。外の景色を眺めながらのお食事は皆さん、大変喜ばれ、ゆっくりと召しあがっていました。また、冬場暖房が故障のためフロアも寒かったのですが、ストーブを使用することにより煮物をストーブの上で煮たりし家庭的な雰囲気を味わうことができました。

1. 生活全般について

- ・ 行事、レク、誕生会等皆さん楽しく参加して頂き、日常生活においても変わりなく、ご利用者や職員にも多くの笑顔が見られ、温かみのある家作りができたと思います。また、季節ごとの花を絶やすことなく飾り、家全体が華やかになり、目でも楽しまれています。
- ・ 居室で過ごされている方に対して、見守り、声かけ、身体に多く触れ合うことにより体調の変化等、見逃さないように努め、看護職員、栄養士との連携をとり、よりよいケアや支援をできるよう努めてきました。
- ・ ホームでの生活状況が分かるように、普段のありのままの様子を多く写真に撮り、アルバムに残す同時に、どうしても来所できないご家族のために、手紙と一緒に生活記録を同封する等、今後ご家族との繋がりを大事にしていきたいと思います。
普段寝たきりの方が、トイレに座っての排泄や、入浴（個浴）されている様子をみられ、自分の家ではとてもできないことだと大変感激されて帰られました。

2. 食事

- ・ 個々の食事形態を理解し、その人にあった食事を提供することができました。また、食前体操や食後の口腔ケアを行ったことにより、口腔内の清潔保持に繋がり口臭なども軽減し残食も少なくなりました。
普段ソフト食の方も、工夫をすれば常食でも対応して召し上がって頂くことができ、食べることであったとの満足感を味わえたと思います。
- ・ 旬の食材や季節の食材を利用し、昔ながらの料理や、おやつ作り等、一緒に楽しみ季節感を味わって頂けたと思います。

3. 入浴

- ・ 個々にあった入浴を検討し、負担のかからないよう無理をせず、ゆったりとした入浴を行うことができました。また、入浴剤を使用し温泉気分にあびた入浴される方もおられました。
- ・ 特浴で入浴されていた方も個浴に変更し、入浴して頂いたところ、ゆったりとお湯に浸かることができ、満足そうな表情が見られとても良かったと思われました。
体調不良者も二人対応にて入浴することにより、負担軽減を図ることができました。

4. 排泄

- ・ 個々にあったパットの使用や陰部洗浄等を行うことにより、尿、便臭等緩和され不快感を与えないように努めてきました。また、できるだけトイレに座って排泄ができる喜び（爽快感）を促すことに努めてきました。
- ・ 薬に頼らず、朝食前にヨーグルトを摂取して頂き、自力排便を促し効果の現れてきている方もおられます。

5. 行事等の取り組みについて

- ・ 出張料理では、各家に出向いて頂き、目の前で出来上がるのを楽しみに待っておられ、食もいつもより進まれているようです。
- ・ 誕生会では、ご家族の参加や自宅に帰られたり、また、皆さんと一緒に祝いされたり、他ユニットからの余興の出前があったりと楽しく行うことができました。

- ・ 他ユニットとの交流会（忘年会）も実施してます。これからも、自分の家にこだわらず、他ユニットとの交流等、楽しんで参加して頂けるように取り組んでいきたいと思いをします。

6. 一年を振り返って

- ・ ご家族の方とスタッフとの連携を図るために、日々の生活記録ノートを活用することで理解を得ることができました。
- ・ 突然の別れを通じて、日々の関わりがいかに大事か、悔いのないケアをどう行っていくかを痛感させられました。
- ・ 前庭の畑にて、野菜作りを楽しみました。種まきから収穫まで行い、家で調理し味わいました。特にさつまいも掘りは大好評でした。「でっかいなー、何個も取れたよ」等と大喜びしていました。また、鍬を持って頂いたところ、一生懸命畑を耕し、生き生きとしたその姿や表情がとてもよく心に残りました。

現在の状況に甘んじることなく、日々変わる方に対しての「個別ケア、その人らしいケア」を心がけて支援して行きたいと思いをします。

| | | | |
|----------|--------|---------|-----|
| 年間述べ利用者数 | 2,578名 | 年間新規利用者 | 23名 |
| 1日平均利用者数 | 7.1名 | | |

1. 生活全般について

利用前日には、担当ケアマネ・看護職員・栄養士・相談員・主任・副主任・介護職員が参加し、ご家庭での生活状況や健康状態・本人とご家族の意向を確認し合いながら検討を行ってきました。新規ご利用者については、事前に担当職員の実態調査での報告を基に、利用期間中のケアについて話し合いの場を設けてきました。

「在宅生活の延長」を意識し、施設利用であっても自宅での生活と同じように、自分らしい生活のリズムを崩されることなく、安心して落ち着いた生活をして頂けるように配慮してきました。また、利用中に検討内容と異なる状況時の対応として、在介・看護職員に繋ぎ迅速な対応を心がけてきました。

しかし、環境の変化による「家に帰りたい」との思いから、徘徊・不穏・不眠状態になられる方に対してのケアは特に難しく、常に考えさせられることが多かったと感じています。

また、シフト上で他の家の職員が業務に就く場合があり、ケアや業務遂行上での統一や連携が困難な時もあり、ご迷惑をおかけすることがあったため反省と十分な注意が必要であったと感じました。

ご利用者の中には、対応困難な要望や、「自己主張？」を全面的に出される方もいましたが、その「自己主張」を、敢えて自己主張と捉えず、本人の「ニーズ」と解釈し、いかにしてそのニーズに応えることができるかと言うことをケア会議の場でじっくり話し合うべきであったと思いました。

ご利用者間の些細なトラブル（テーブル席の場所・テレビの位置や見たい番組・居室位置・マッサージ機の順番・食事中のマナー等）により不穏状態になられる方のメンタルケアの難しさを痛感しました。介護職員が事前に配慮することで、最小限度に抑えられることができたのかもしれないと思っています。

ご利用者やご家族の方がどのような状況でショートステイを利用されたとしても、介護職員の尺度で、生活を解釈してしまうことは避けなければならないことである。在介との情報交換を今以上に密にしていくことと、ご家族の方が安心してお任せして下さるようなケアを提供できる施設・介護職員に成長しなければと考えます。

2. 食事について

在介からの連絡票を基に個別の対応ができていたと思います。その日の状態やご希望に応じて、厨房の協力を頂きながら柔軟な対応することができました。

食器・箸・湯のみ茶碗・トレー等を購入し給食イメージからの脱却と同時に、「お客様」を意識した対応を考えてきました。食器等は消耗品であるため定期的な買い替えを行う必要があったが、後回しになってしまったことが反省点。

手作りおやつが好評で、介護職員が趣向を凝らし喜んで頂けるおやつ作りができたと思います。また、朝食時のヨーグルトも好んで召上がって頂き、長期ご利用される方や、定期的に利用される方にはお通じの改善にも繋がっていたと感じました。

3. 排泄について

自立支援に向けてのパット外しや、トイレでの排泄を試みる必要があると思われる

ものの、在宅介護の延長と継続を考えると、本人の意思を尊重しつつ、今後の家族の介護負担にならないためのケアにも重点を置くことに着目し対応にあたってきました。

利用期間中の状況をお知らせして、ご利用者のケアのみならず介護職員の介護負担の軽減が図れるように心がけてきました。また、スキントラブルの場合は看護職員に繋ぎ支持の基、悪化を防ぐことに留意してきました。

4. 入浴について

機械浴・個別浴の希望を伺い、安全に、安心して気持ちよく入浴して頂くことを第一に対応してきました。利用期間によって入浴回数が異なるが、入浴がもたらすリラックス効果を活かし喜んで頂けるよう、また、日曜日も入浴日とし、柔軟な対応に心がけてきました。

4ユニット連携しながらの入浴介助となっているため、入浴回数を増やすことは非常に難しい状況にあるため、引き続き検討事項である。

5. 行事等の取り組みについて

行事等がある毎に、ご利用者さんにお知らせし参加の有無を伺い、ご本人の意思を尊重しながら参加の呼びかけを行ってきました。気分転換を図ることや、ホームならではの行事に参加することで「楽しかった。」との声を数多く聞くこともできました。

6. 一年を振り返って

年間を通して居室選定の難しさを感じています。トイレの向きや認知症の方の状況を考慮すること、新規ご利用者の状況等。定期利用の方がなるべく使い慣れた居室であることや、居室で臥床時間が長い方は窓から眺められる景色等を配慮したり、また、それが申し込み順であったりと。ご利用者にご不満を抱かれてしまうこともありました。

今年度は増床工事に伴い、窓にはシートが張られ、外の景色を見ることも、暗く騒音に悩まされる期間があり大変ご迷惑をお掛けしたと思います。

施設の今年度の目標でもあった言葉遣いについては、時として不愉快な思いや、誤解を生じてしまったケースがありました。その都度、介護職員同士の話し合いと、上司への相談を行いながら信頼回復に努めてきましたが、更なる配慮が必要であり、ケースに依じての勉強会を必要と感じました。また、事例を記述しておくことも必要とだと思えます。

セミパブリックスペースを、「洗濯物をたたむ場所」化にせず、「くつろげる場所」として、ご利用者に応じた視点で設えを工夫して行きたいと思えます。

7. その他

入退居時の荷物確認には、細心の注意を払っているにも拘わらず、確認ミスや返却ミスがあり紛失した場合もあった。

〈原因として〉

- ① 衣類にしっかりとした名前の明記がされていない。（ご利用者に了解を得て名前を書かせて頂くことも考慮）
- ② 職員のうっかりミス（入退居に追われる時など）
- ③ 洗濯・乾燥時に他のご利用者さんの衣類と混ざってしまう。
- ④ シフト上、他の職員が入れ替わっての対応時
- ⑤ ご利用者同士の衣類の交換など

〈改善策として〉

- ① 名前の明記をお願いします
- ② 忙しいことを理由とせず、確実に確認し対応する
- ③ 他のご利用者・入居者の衣類と一緒にしない
- ④ 職員同士お互いに確認できるようにする
- ⑤ ご利用者の言動に注意をする

※ 返却ミスや紛失してしまった場合の対応として、先ず上司に報告。ご利用者・ご家族の方に状況説明のための連絡。今後の対応にご理解頂き、不信感と不愉快な思いをお掛けしないように丁寧で迅速な対応に心がける。

平成20年度 いいたてホーム医務室事業報告書

1. 年間業務計画

1) 利用者及び職員の健康管理

| | |
|----------------------|--|
| <p>■ 健康診断について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 検診率100% (年2回) ➢ 感染症対策を講じることで早期発見や治療に繋がり、症状の重度化を避けることができた。 ➢ 腰痛対策については、予防法と介護技術の修得に努め腰痛の訴えは少なかった。 |
| <p>■ 職員の自己管理について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 体調不良者、特に消化管症状を有する職員が多かった。 ➢ 職員の半数近くがかかりつけ医を持っていることがうかがえた。 ➢ 歯科・内科とも村内の診療所を活用できるよう導いていくことを今後の課題にしていく。 |
| <p>■ 食への意識改革について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 単に栄養が摂取できればよいというものではないことから検討を要す。 ➢ 食事委員に所属、身体にやさしい物・消化吸収まで考えた内容、ソフト食、軟食についての取り組み、施設内研修はもちろん、他施設での研修を重ねることにより検討中。 ➢ ソフト食への取り組みを理解・支援すること。口腔ケアを充実させることで嚥下状態の把握、感染症予防対策にも繋がったように思われる。 |
| <p>■ 健康教育について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 自らが心身ともに健やかであることで理想的な介護を提供できる。なんでも勉強会を定期的に行い、その手助けをすることを目標にした。 ➢ 急変時の対応については新採用時以外にも復習を兼ねて勉強会を実施。 |
| <p>■ 受診について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護と看護間で情報を共有することで比較的速やかな対応ができた。 ➢ 医療知識の周知・理解を図ることで疾患や事故の予防ができた。 ➢ 重症度の高いご利用者については診療所との連携を図ることで、本人の希望を叶えるべく施設生活を継続することができた。 ➢ 深夜の看取りについても速やかに対応でき、家族とともに医師の到着を待つという体制を取る事ができている。 |

2) 感染症対策

| | |
|------------------------|---|
| <p>■ 感染症対策委員会について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 各部署から委員を選出し感染症予防対策についての勉強会を開催し職員に対しての周知、在宅に向けての予防についての呼びかけ等ができた。 ➢ 委員会の召集は11回、会報の発行は2回であった。 |
| <p>■ インフルエンザワクチン接種</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 入居者・職員全員に初回接種のみ行う。追加接種については各自とした。 ➢ ショートステイの方が必ずしもワクチン接種が済んでいるかというところでもなく、確認が必要。 ➢ 新規入居者についての接種確認は実調時に確認してきた。 |
| <p>■ 感染性疾患について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➢ インフルエンザ(B)の罹患者が出たが拡大せず終息。 ➢ 急性胃腸炎については想定内。対応についても問題なしであった。 ➢ 思ったほどの熱発者もなく予防と異常の早期発見に努めることが結果とされている。 |

3) 褥瘡対策

| | |
|---------------------|---|
| <p>■ 委員会の設置について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 介護側を主に、看護側はサポートとして活動。 ➢ 栄養の大事さについては適宜話し合い関心を深めていった。 ➢ 他施設・病院から褥瘡形成されたまま入居となった方が完治した。 ➢ 治療だけでなく、ケアについても十分に評価することで今後の励みにする事ができた。 ➢ 備品や補助具を見直し点検することで意識の改善にも繋がった。 ➢ 各家から委員が臨むことについても前向きで良い刺激を共有できた。 |
|---------------------|---|

4) 終末ケア

| | |
|---------------------------|--|
| <p>■ 看取りについて (別紙)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➢ その時々注目すべき人に、厨房をはじめ全スタッフで関わることができた。 ➢ 点滴や吸引など、不可欠かつ慣れないことに躊躇せず取り組むことができた。 ➢ 当施設で看取ることにかかりつけ医の十分な理解が得られている。診療所・介護側・事務側そして家族、それぞれの連絡調整を密にする事は今後も続けていく。 ➢ 指針と職員研修については再検討の必要があるため次年度への課題とする。特に“死”についての倫理観を確かめ合う場が必要である。 |
|---------------------------|--|

5) 緊急時の対応

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 心臓マッサージの手技について一部変更があった。人工呼吸よりも心臓マッサージの回数を増やすことのほうが蘇生の確率が高いという統計が出たことによるもの。(15回⇒30回)以後も周知していきたい。 ➢ 緊急時の対応についてはこれまでどおり、定期的な勉強会を開催し、繰り返し修練する以外手段がないと思われる。 ➢ 事後のカンファレンスをするという機会を持つことが今後の課題でもある。 |
|--|---|

《通院状況》

| | 大町 HP | 小野田 HP | 渡辺 HP | 市立 HP | 村上 HP | 済生会 HP | 西 HP | 日赤 HP | 高野 眼科 | あづま HP | 草野 歯科 | 飯樋 歯科 | その他 |
|-----|----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|---------|----------|----------|-----------|----------|----------|-----------|
| 4月 | 5 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | |
| 5月 | 6 | 3 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | |
| 6月 | 5 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 (大河内眼科) |
| 7月 | 6 | 0 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 8月 | 6 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 9月 | 13 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | |
| 10月 | 5 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | |
| 11月 | 7 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | |
| 12月 | 3 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | |
| 1月 | 7 | 4 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | |
| 2月 | 4 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | |
| 3月 | 5 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | 72 | 18 | 6 | 4 | 23 | 1 | 3 | 3 | 1 | 4 | 9 | 1 | 1 |
| 合計 | 146 | | | | | | | | | | | | |

《入院状況》

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|-------|------|------|-----|------|----|-------|-----|-------|------|-------|----|------|--------|
| | 実日 | 実日 | 実日 | 実日 | 実日 | 実日 | 実日 | 実日 | 実日 | 実日 | 実日 | 実日 | 実日 |
| 市立 | | | | 1 2 | | | | | | | | | 1 2 |
| 小野田 | | | | | | | | 2 94 | | 2 112 | | | 4 206 |
| 渡辺 | | 1 12 | | 1 10 | | | 1 6 | | | | | | 3 28 |
| あづま | | | | | | | | 1 23 | | | | | 1 23 |
| 大町 | 1 39 | 2 68 | 1 1 | 3 54 | | 5 154 | | 1 8 | 1 13 | 3 178 | | | 17 515 |
| 日赤 | | | | | | | | 1 7 | | 1 4 | 3 | | 5 11 |
| 福島済生会 | | | | | | | | | | | | 1 22 | 1 22 |
| 合計 | 1 39 | 3 80 | 1 1 | 5 66 | | 5 154 | 1 6 | 5 132 | 1 13 | 6 294 | 3 | 1 22 | 32 807 |

(別紙)

≪終末内容とその経過≫

1. ひだまりの家 TKさん (93歳)

【パーキンソン症候群】

経口摂取がままならず四苦八苦しながらも、どうにか摂取できていたがどうにもダメだなと家族を呼び、一緒に見て頂いた。家族と共に苦労した食事介助が懐かしく思える。

家族と病院へ受診しようとの思いで行くことに。胃瘻を造る目的で入院し、帰るはずだったのに、・・・結果的には退院すら危ぶまれる状態になり施設には戻れないと医師の診断。やむを得ず退居となる。

2. ゆとりの家 WSさん (82歳)

【脳梗塞・高血圧症】

毎日、歩行訓練に「頑張ります」と言って時間になると、午前・午後必ず本人から進んで行っていた。徐々に病状が悪化し、歩くことも酷くなり訓練を少しずつ休むようになっていった。ついに、歩くことも出来なくなり、食事もままならない状態にて病院へ。大腸癌との診断で入院加療。本人の希望、家族の希望もありホームでの看取りとなる。90歳を迎える夫の身体を気遣い居室にベッドを並べる日々となる。献身的な夫の姿に頭が下がります。

お二人様ご苦労様でした。

3. ほほえみの家 SKさん (86歳)

【多発性脳梗塞・胃瘻造設】

まんじゅうが好きでペロリと食べてしまった。

胃瘻になってからも、そっと口にあんこを入れると食べてしまったが、痰が出るようになりそれも出来なくなり楽しみにしていた食べる事を断念。家族が代わる代わる面会に来てくれ、面会時には食べる事が出来ないからと素敵なパジャマを手土産に来てくれていました。最高に嬉しいプレゼントですね。沢山パジャマを持っていたKさんでした。

4. ひだまりの家 SFさん (93歳)

【老年期認知症】

「川俣の鶴沢だぞい」「あんた知ってっかい」と話すときの顔。

「おいしそうだない」「私にもくなんしょ」という顔。

とてもお茶目で、がんとして自分のモットーは曲げなかった。母想いの息子さんに最期は一緒にいて頂き、どんなに嬉しかったか。いつもあまり言葉をかけない息子さんが、もうダメかなといった時に「かあちゃん かあちゃん」と呼んだ声が耳から離れません。

5. くつろぎの家 KNさん (99歳)

【食思不能】

食欲減退で入院。本当にマイペースで食べたいものを食べただけ食べる。起きていたい時に起きている。自分をしっかりと持っていた方であった。娘さん夫婦も老夫婦とあり、介護できる状態でなく、とても大事な父親をホームに頼むことに負い目を感じ本当によく足を運んでくださいました。ご苦労様でした。

親に対する愛情・思いやる気持ち、色々な面で教えて頂きました。親として、子供としてやらなければいけない親子関係づくりを。

#6. ひだまりの家 SMさん (81歳)

【脳梗塞後遺症】

脳梗塞で左半身麻痺となり不自由を人一倍感じ、いつも口癖に「こんなになっちまってー」と言っていました。職員の名前を覚えるのが早く、覚えたら忘れないのがMさん。自分の居室で寝ていると、東棟から西棟に降りて来る階段から来るのを見て「〇〇だべ!」と当てていました。

それだけ、自分と相手とに感心を寄せ、一人ひとりに親しみを込めていました。寂しがり屋さんだったのか?

体調がおもわしくなく嘔吐が続く様になり、入浴時、体動時には細心の注意を払い接してくれた介護員の皆さん、ありがたかったです。突然に激しい嘔吐。家族も間に合わなかった位に急に逝ってしまった。いつか別れは来ることは分かっているけど、やはり別れは辛いものです。いつも、どんな時にも……。

#7. ほほえみの家 ITさん (83歳)

【糖尿病・脳血管認知症】

糖尿病。決められた時間にインスリン注射。食事制限あり。バックを下げ家に帰ると言う。

色々とありながらも、時間に関係なく「注射してくんちえ」と何回、医務室のドアを叩いたか。時間を書き、「この時間が注射の時間です」といっても、又すぐ「注射してくんちえ」と来る。

……徐々に医務室にも来なくなって、食べられなくなって、だんだんTさんではなくなっていくのが分かる。自分がどんな生き方をして来たのかが、やっぱり一番大事だと思いたい。

#8. ほほえみの家 YTさん (86歳)

【老年期認知症・高血圧】

夫が亡くなって息子と2人暮らし。息子は働きに出ていたのだから、留守番をしていた〇〇さん。

漫画本が好きだと縁側の日当たりの良い所で漫画本を読む事が好きだったという。

ホームに入所してから、血圧が高く鼻血が止まらず耳鼻科に行った事もあった。いつも他の人と話す事はなかったが自分の思うように、好きなように。コタツ掛けは、全部縫い目をほどこいてしまったり何かをしていないと居られないのか。じっとしている事が嫌いだったのか、若い時から田んぼや畑仕事をやってきた方には、ただじっとしている事が耐え難かったのか。

#9. ひだまりの家 KSさん (76歳)

【多発性脳梗塞・てんかん・胃瘻造設】

平成13年、脳出血で左半身麻痺となり、病院と施設を転々とし当ホームへ。食べる事が好きで大きな口であ〜んと食べると、すぐに熱を出してしまい病院へ。胃瘻となっても食べたくて食べたくて……何度か入退院を繰り返していた。ホームへ戻った時は、笑顔とSさん特有の「男は度胸」「女は愛嬌」の合言葉を欠かせなかった。痰が多く、吸引をしなければならぬ状況においても「ゴホンとして」

の声賭けに「6本」と言っでは笑わせていた、酷いはずの痰吸引にも毎日耐えてくれた。最期には熱が出て、いつもなら病院には行かないというSさんが自ら「病院に行く」と言った……。帰りたい・帰りたいお家に帰れて本当に良かったね。好きな民謡を唄って下さい。

#10. SKさん(90歳)

【脳梗塞・前立腺肥大】

夫婦での施設入所、同室で過ごされていたが妻に先立たれてしまった。

肺炎で、入、退院を繰り返していたが、ある日、ちょっとしたことで大腿骨頸部骨折となり入院。入院生活が長かったせいもありレベル低下となり飲み込みがままならなくなり食形態もソフト食となり本人はストレスが溜まる状態が続く。目を盗んでは手が伸び食べ物を食べようとする動作が幾度かありひやりとしたことがあった。目の前には食べ物は置けないぞと思いつつも自分の中での罪悪感があり葛藤の日が続く。ある夕食後に呼吸不全となり、救急搬送となり長期入院生活となり施設には戻る事無くHPでの死去となる。

#11. むくもりの家 SKさん(81歳)

【進行性核上性麻痺】

平成15年、つまづきから始まり歩く事が出来ず車椅子の生活に。思うように歩く事ができない、思うような動作が出来ない、食べたい物もままならず。熱が出て痰が多くなり、熱発を主訴に受診。進行性であるが由に嚥下困難となり胃瘻造設の運びとなるが良い方向へは行かなかった。奥さんの所へ行くことができ、幸せなのかな？

#12. のどかな家 STさん(94歳)

川俣の病院よりホームへ。

赤ら顔で、小さいおばあさん。身体的な不調でいつもベッド上で過ごす事も多く、ベッドでホールに来て皆さんと交流されていた。食事は若いときからあまり摂らなかつたとお聞きした。少し食べると「いんね いんね」と連発。体は小さいが、何かを訴える時は、とても甲高い声でホール全体に響き渡る声だった。

「〇〇さん」「はいよ」と毎日のように誰もが親しみを込めて呼び合っていたのは昨日のこのようです。

#13. TYさん(90歳)

【脳血管性認知症】

入所時、腰は曲がっていても歩行可。時が過ぎ歩くことができず車椅子乗車となる。

足指腫瘍では何回もの通院治療でドライブかねての川俣へ、医大へと気分転換になっていたかは疑問である？家族の面会も幾度とあり、誕生日には花束のプレゼントあり心温まる一場面も見せていただきました。

突然の熱発には熱も下がることなく状態が悪化、家族に看取られての幸せな最期だった。

#14. TYさん(85歳)

【脳梗塞、てんかん】

てんかん発作が頻度的に多くなり、坐剤でのコントロール、HP入院等での経過が過ぎる。

食事はいつも「うまい」と言って食べてくれる姿に感謝。

居室から這い出てきて「しょんべん」と言う。

「俺ごとってっかい」「上飯樋のTY」と何回も言う。

ある朝、大腿痛(+)、熱発とで受診。30年前に股関節の置き換え手術が施行されており、それが脱臼してしまったのが原因とのことで入院となる。そのまま身体的にレベル低下、施設には帰れないとの主治医の診断に退居となる。

平成20年度 厨房事業報告

1. 重点目標

原点に戻り、口から食べることの意義を再確認し、ご利用者ひとり一人の常態を把握しながら経口での食事を実現して行くことで、生活の質の向上に繋がり、生きる喜びとなるような食事を提供できるように努めてきました。

2. 実施内容

(1) 年間実施食数

| 食種 食数 | 特養 経口食 | 特養 経管栄養 | ショート ステイ | 職員食 | 研修食 実習生 | 検食 | 家族食 | デイサービス (開所306日) |
|----------|-----------|------------|-------------|---------|------------|-------|------|--------------------|
| 年間食数 | 70,488 | 8,763 | 6,913 | 10,513 | 78 | 1,095 | 169 | 6,070 |
| 1ヶ月平均 | 5,874 | 730.2 | 576.1 | 屋 876.1 | 6.5 | 91.3 | 家族会 | 505.8 |
| 1日平均 | 193.1 | 24.0 | 18.9 | 28.8 | | 3 | 敬老会 | 19.8 |
| 年間総食数 | 104,089食 | | | | | | 芋煮会他 | |

(2) 年間食材費

| 食材費 | 特養 | デイサービス |
|------|-------------|------------|
| 平均 | 1人 1日 901円 | 1人1回 460円 |
| 食材費額 | 29,446,444円 | 2,792,200円 |

(3) 年間平均食事栄養量

| 栄養量 | 熱量 | たんぱく質 | 脂質 | 塩分 | 水分 |
|-----|-----------|-------|-------|------|-------|
| 特養 | 1,737kcal | 66.5g | 41.9g | 9.7g | 835ml |
| デイ | 550kcal | 26.8g | 5.7g | 2.8g | 242ml |

(4) 栄養ケアマネジメント

| 対象者 | 対象者 | 実施期間 | 見直し期間 |
|----------|-------------------|--------------------|---------------------------------|
| 特養 | 入居者全員 延人数 90名 | 通年 | 3ヶ月。但し、食事形態に変更があった場合は、その都度見直し対応 |
| デイ | 対象者なし | 3ヶ月。 対象者いる場合実施 | |
| アセスメント結果 | 低リスク 47名 問題ない者 | 中リスク 17名 やや瘦傾向者 | 高リスク 16名 経腸栄養者、静脈栄養者など |

(5) 詳細

| | | |
|------|---|--|
| 栄養管理 | 栄養ケアマネジメント実施。 栄養アセスメントに基づく個別栄養管理および個別対応食提供。 | |
| 嗜好調査 | 1回。栄養ケアマネジメントに含めて4月に実施。その後は随時対応 | |
| 希望食 | 各家希望およびご利用者誕生日希望食などその都度提供 | |
| 行事食 | ホーム | 家族会、夏まつり、敬老会、芋煮会、運動会、新年会等をはじめ四季折々の行事食を提供。 |
| | デイ | 毎月行事食を提供、12月にはご利用者の100歳賀寿祝いも実施。 5月からは喫茶週間も実施。 |
| 選択食 | ご利用者に自分の意思で選択して頂くことが困難なこともあり麺類と御飯物の選択食ぐらいで実施回数も少なかった。来年度は実施方法見直しを含め再度検討しながら取り組んでいく。 | |
| 厨房会議 | 毎月実施。食事サービスと意識向上について厨房内で検討を行い取り組んできた。 | |
| 家会議 | 毎月参加。家との連携を密にしながら状況把握し、ご利用者の食事に反映させてきた。 | |

| | |
|------|---|
| ケア会議 | 栄養ケアマネジメントへの取り組みに反映させてきた。 |
| 委員会 | 家向上委員会、食事委員会、行事委員会、口腔ケア委員会、感染症対策委員会の一員として参加 |
| 衛生管理 | 食中毒予防・安全な食事提供に努め感染症を予防できた。今後、更なる衛生管理徹底のため 電解水精製器導入へ向けての施設内勉強会もおこなった。 |

(2) 事業取り組み内容

① 食事

- ・ 食事形態の見直しとして、ソフト食継続とキザミ食に代わる軟らか食への取り組みを、視察した2施設のソフト食事例も参考にしながら取り組んできた。
以前のキザミ食より食べ易くなってきているが、未だ改善の余地があるため、来年度も継続して取り組んでいく。ソフト食も盛り付け方に変化をもたせるなどマンネリ化させないように工夫していく。
- ・ 各委員会との連携（検討結果を食事に反映させていく）
食事委員会に委員として属し、連携をとりながら取り組むことが出来た。
季節食、出張料理など
- ・ 個別対応食（減塩、脂肪制限、糖尿病、エネルギー補食、嗜好対応など）
家会議及びケア会議での検討結果を基に提供してきたが、連絡不足もあったため連携を密にする。また、病態食についての根拠と必要性の説明が不十分だったため、栄養士だけでなく全体で理解してもらえるように勉強会を設けていく。
- ・ 誕生日食
大勢のご家族にも参加して喜んで頂けてよかった。来年は更にケーキ類の内容と演出方法も工夫しながら、ご家族との交流も図っていきたい。
- ・ 家希望食
各家職員の協力を得、出張料理に取り組んできて、ご利用者との会話を通して触れ合うことが出来てよかった。来年も楽しい時間を共有していく。
- ・ おやつ
手作りおやつより既製品の方が多かった。来年度は厨房体制見直しと新しい機器を活用し、手作りのものをもっと増やしていく。また、ホームとデイサービスで出張おやつ作りを定期的の実施できるよう取り組んでいきたい。
- ・ 行事食
各種行事食提供してきた。特に厨房から出てご利用者の目の前でおこなった握り寿司は大好評で、普段ソフト食の人もお寿司をお美味しそうに食べて頂くことができました。また、普段と違った食事提供の大切さを実感できました。
- ・ 選択食
殆ど実施出来なかった。来年度は出張料理時に家の希望食と一緒に試行してみるなど方法を変えておこなってみる。

② 安全な食事提供

- ・ 衛生管理、食中毒、感染症に注意し行ってきたことで、未然に防ぐことができた。
- ・ 生産者や直売所の協力を得ながら、食材管理と地産地消を進めてきた結果、ご利用者に旬の美味しい料理を味わって頂くことが出来た。また、コスト削減にも反映できました。

③ 20年度まとめ

厨房から一歩外に踏み出した年でした。

ソフト食の見直し、キザミ食の見直し（軟食）、各種行事食、誕生会と色々取り組んできました。その中でも、特に出張料理は厨房から各家に出向いてご利用者の目の前で作り一緒に食事するという画期的な取り組みで、はじめは慣れない場所での調理と、どう関われば良いのか分からず不安でしたが、ご利用者から「美味しかった」の一言と笑顔に、緊張もほぐれ楽しく触れ合うことが出来ました。そして、ご利用者を知ることで次に繋がり、各家からの希望に対して事前に試作したり、自分達から提案するなど積極的に対応することができました。家の職員やご利用者にも手伝って頂きながら、料理は皆で作ると美味しくなることも実感しました。

一方で、栄養管理事務処理と食事連絡体制に不備があり業務に支障をきたす事も多かったため、情報を全体で共有しながら現場が働きやすい体制作りをすることが課題。

4月からは増床により食数も増え厨房体制も変わりますが、新しい機器を活用しながらご利用者が美味しく食べられるように、軟食とソフト食を作り上げるよう努めていきたいと思えます。

平成20年度 いいたてヘルパーステーション訪問介護事業報告書

1. 基本方針

ご利用者の尊厳、基本的人権を尊重し、ご利用者の可能な限りその人らしさの能力に応じた日常生活が送れるよう、限られた時間で丁寧な介護サービスを提供してきた。また、専門職としての自覚を持ち、ご家族やご利用者の方にも相談等、介護の方法などアドバイスを行ってきました。

2. 重点事業項目

(1) ご利用者のニーズ把握や課題分析

ケアプランに基づき、当ステーションにおいてケア会議を持ち、ご利用者の持っているニーズの把握や問題等を、ご家族の協力を得、分析しサービス提供に繋げてきた。

細かい配慮を要する方においては、当ステーション内において連絡ノートを活用し次回の訪問に繋げてきた。

(2) ヘルパーとご利用者及び介護者間との連絡ノートの活用

連絡が取りにくい家族や介護者に対し他事業所間との、連絡ノートを活用し、コミュニケーションを図ってきた。また、ご利用者個人のケース記録表を置き、連絡、状況等の把握に活用してきた。

(3) サービス内容の質の強化と統一

よりきめ細やかなサービスを提供する為、月1回の定例会や、随時ミーティングを開き、サービス内容の確認を行ってきた。定例会においては、介護技術や身近なケアにおける統一を図りヘルパーの心得や注意点などを題材にあげ質の強化に努めてきた。

(4) 各関係機関との連絡調整及び包括支援センターとの連携

ご利用者の変化や要望などについて、関連機関と連絡を取り合い、また、地域ケア会議にも出席し、より良いケアに繋げるよう連携を図ってきた。

(5) 身体障害者及び知的障害者（支援費）対象の訪問活動

村との連絡調整を密にし訪問活動を行ってきた。また、ご利用者とのコミュニケーションを図ると共に、そのご家族及び介護者の話を聞き負担軽減に努め、サービスの提供に心がけ支援してきた。訪問看護事業所を利用している方もおり、連絡ノートが状態の把握にも活用された。

(6) 反省及び課題

① 訪問の移動時間にゆとりを持って移動できるようにする。

訪問先でアクシデントなど時間がかかってしまい、次の訪問先に時間通りに入れない時などは、電話連絡しその旨を伝える。

② ご利用者にとどのようなサービスをすればいいか、状態の変化に合わせて援助計画を立てる。また、ひとり一人のご利用者さんの体調の変化など細かい点に気を配れるようにする。

③ ご利用者の求めているサービスができていたか。また、満足して頂けたか自分のサービス提供を再度確認してみる。

④ 2・3度訪問してくると慣れてしまい、言葉づかいなど、配慮にかけた言動にならないように注意する。

これらの反省を踏まえ、より良いサービスの提供ができるよう、次年度の課題とする。

派遣世帯（平成21年3月31日現在）

※（ ）は重複の方

| | 区 分 | 派遣世帯数 | 区 分 | 派遣世帯数 | 合 計 |
|------|------|--------|-------|--------|------|
| 介護保険 | 寝たきり | 11（10） | 一人暮らし | 4 | 26世帯 |
| | 老夫婦 | 5（2） | 認 知 | 16（11） | |
| | その他 | 4 | 要支援 | 3 | |
| 村委託 | 支援費 | 6 | | | 6世帯 |

3. 利用状況

(1) 介護保険利用者状況

| 月 | 要支援 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 合計 | 身体介護 | 家事援助 | 複合 | 合計 | 稼働日数 | 1日平均利用数 |
|-----|-----|------|------|------|------|------|----|-------|------|-----|-------|------|---------|
| 4 | 5 | 0 | 13 | 4 | 5 | 3 | 30 | 225 | 77 | 62 | 364 | 30 | 12.1人 |
| 5 | 5 | 8 | 15 | 4 | 5 | 3 | 40 | 214 | 79 | 58 | 351 | 31 | 11.3人 |
| 6 | 5 | 1 | 13 | 4 | 6 | 3 | 32 | 204 | 98 | 54 | 356 | 30 | 11.9人 |
| 7 | 6 | 7 | 13 | 4 | 7 | 3 | 40 | 279 | 68 | 60 | 407 | 31 | 13.1人 |
| 8 | 6 | 8 | 11 | 5 | 6 | 4 | 40 | 265 | 52 | 59 | 376 | 31 | 12.1人 |
| 9 | 6 | 7 | 9 | 6 | 5 | 4 | 37 | 266 | 50 | 56 | 372 | 30 | 12.4人 |
| 10 | 6 | 5 | 11 | 3 | 6 | 5 | 36 | 324 | 60 | 61 | 445 | 31 | 14.4人 |
| 11 | 6 | 5 | 11 | 5 | 6 | 5 | 38 | 312 | 75 | 50 | 437 | 30 | 14.6人 |
| 12 | 5 | 1 | 10 | 5 | 6 | 5 | 32 | 293 | 46 | 56 | 395 | 26 | 15.2人 |
| 1 | 4 | 3 | 8 | 5 | 6 | 5 | 31 | 249 | 32 | 74 | 355 | 25 | 14.2人 |
| 2 | 3 | 4 | 8 | 5 | 5 | 5 | 30 | 246 | 35 | 76 | 357 | 29 | 12.3人 |
| 3 | 3 | 3 | 8 | 4 | 7 | 5 | 30 | 243 | 30 | 84 | 357 | 29 | 12.3人 |
| 合 計 | | | | | | | | 3,120 | 702 | 750 | 4,572 | 353 | 13.0人 |

(2) 自宅入浴 入浴申請者14名

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 1日平均利用数 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---------|
| 入浴回数 | 46 | 38 | 55 | 39 | 44 | 52 | 26 | 50 | 46 | 32 | 21 | 35 | 484 | 1.5人 |
| 稼働日数 | 25 | 27 | 26 | 26 | 27 | 25 | 27 | 26 | 26 | 27 | 25 | 26 | 313 | |

(3) 支援費ホームヘルパー訪問利用者状況（村委託）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 | 月平均利用数 |
|------|----|----|-----|-----|-----|----|----|-----|----|-----|----|-----|-------|--------|
| 身体介護 | 48 | 45 | 80 | 96 | 79 | 44 | 47 | 96 | 48 | 98 | 76 | 104 | 861 | 71.8人 |
| 家事援助 | 33 | 34 | 34 | 28 | 27 | 13 | 12 | 31 | 11 | 28 | 9 | 14 | 274 | 22.8人 |
| 合計 | 81 | 79 | 114 | 124 | 106 | 57 | 59 | 127 | 59 | 126 | 85 | 118 | 1,135 | 94.6人 |

《評価及び新年度に向けて》

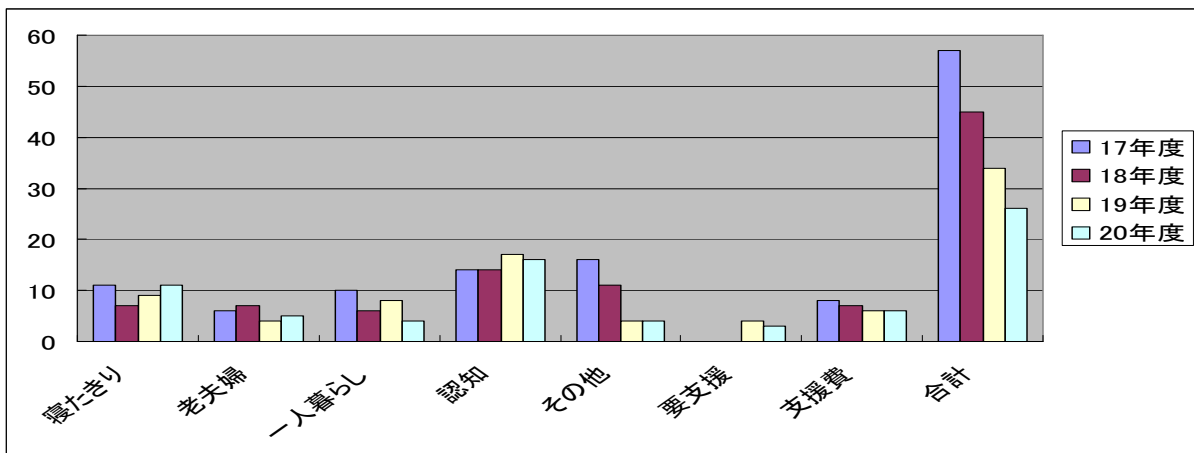
計画に沿って行われて来ましたが、訪問先からの移動の際、余裕がなくなりご利用者に迷惑をお掛けしたこともあるので、遅れる場合は、必ず次の訪問先に連絡を入れ、了承頂くようにしたいと思います。

身体介護においては、丁寧なサービス提供に心がけ、陰部浴・足浴などこまめに行い、介護技術においても統一されつつあるところです。また、ご利用者の些細な出来事を見のがさない様に観察し、次の訪問に繋げていけるように当ステーションでの申し送りを徹底し、ご利用者やご家族の抱える悩みや問題等にも傾聴できるよう、余裕をもって対応してきたいと思えます。

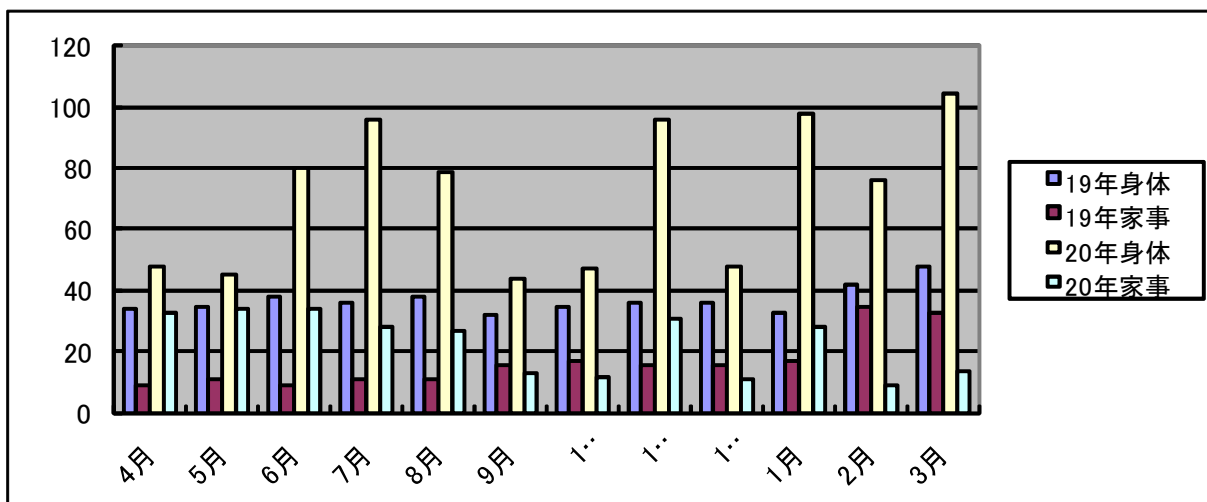
また、一人暮らしの方の訪問では、地域の方や包括支援センター等の機関との連携を図り、見守りや安心して生活できるように支援して行きたいと思えます。

定例会においては、さらに統一したケアが行えるように質の高い介護技術を勉強し、料理においても、ご利用者の年代にあった、好まれる食材、調理方法を勉強し、統一したサービスを提供できるようにしていく。

派遣世帯の利用者数の推移



支援費ホームヘルパーの利用者数



1. 基本方針

看護職員及び介護職員が、ご利用者個々の身体状況に応じ、適正且つ迅速安全な入浴サービスを提供してきました。

2. 重点事業項目

- (1) 安全且つ入浴手順の統一を図るため入浴マニュアルを活用し、その都度確認しながら行ないました。その結果事故なく行えました。
- (2) 感染症予防のため、機材の徹底した消毒をしました。また、職員も自分達が、介者にならぬよう、手洗い、うがい、予防のマスク等、徹底して行いました。具合の悪い職員については、無理せずに休養して頂き体調管理を 全に整えてきました。
- (3) 入浴にあたっては、精 面の介助として常に楽しい会話を心がけ、ご利用者自身や家族の方にも笑顔が多く見られるように、言葉遣いにも注意しながら行うことができました。
- (4) 温泉気分を味わって頂くために、入浴剤の種類を揃え、ご利用者の要望に応えてきました。
- (5) 毎月の定例会に於いて、ご利用者の健康状態の異常や家族の介護疲れ等を把握し、居宅支援事業所にも速やかに連絡するなど、その都度行ってきました。
- (6) お試し入浴は、4件のご利用者がありました。現在も2名の方々には、継続して利用頂いております。来年もお試し入浴は継続したいと思えます。
- (7) 訪問時間の変更について、朝の連絡にて確認し、了承を得て変更しましたが、アンケート調査で”時間の変更はして欲しくない”という回 が1件ありましたので、今後とも最善の注意を払いながらサービス提供をしていきたいと思えます。(調査の結果から、経管栄養の方は契約の時間をお願いしたいとの希望でした。)
職員の都合により変更していた部分もあるので、サービス低下にならぬよう、深く反省しながら、ご利用者が主体であることの意味に反することのないように再度確認し合いました。

3. 事業内容

入浴提供にあたっては、ご利用者の心身の状況や家族からの聞き取りにより、サービス提供を実施しました。

- (1) 看護職員によるバイタルチェックや食事摂取の聞き取り等を行い、ご利用者の体調不良時には、
 - ①ご本人と家族と相談をする。
 - ②入浴時間を短縮する。
 - ③温湯をぬるめにする。
 - ④洗 は行わない。また、入浴を拒否した場合は、無理せず、本人及び家族と相談し、別な日に改めて入浴することを確認する。
- (2) 医療処置を受けられているご利用者(人工 、胃ろう栄養、 留置カテーテル)が増えてきましたので、感染に注意し、連絡ノートを活用しながら、医療機関・訪問看護と連携を密に図りながら提供してきました。

4. 20年度利用状況

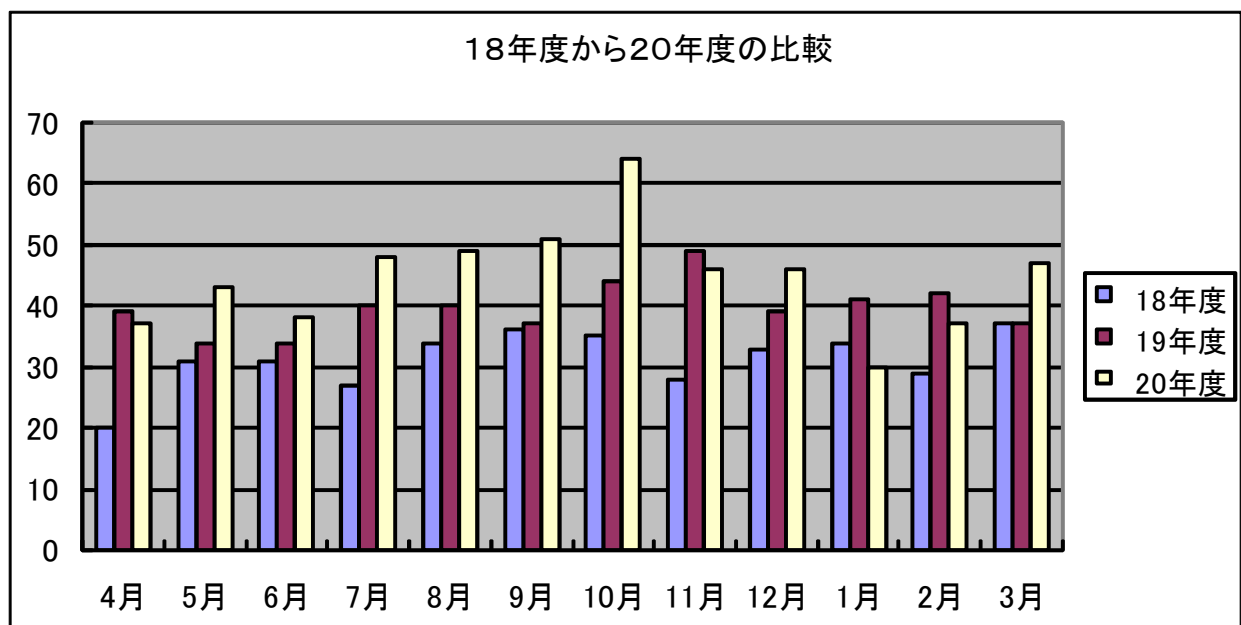
| 月 | 障がい者 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 合計 | 稼働日数 | 延利用数 | 1日平均利用数 |
|----|------|------|------|------|------|------|-----|------|------|---------|
| 4 | | | 0 | 4 | 3 | 7 | 14 | 17日 | 37人 | 2.2人 |
| 5 | | | 0 | 4 | 3 | 7 | 14 | 18日 | 43人 | 2.4人 |
| 6 | 1 | | 0 | 4 | 3 | 6 | 14 | 16日 | 38人 | 2.4人 |
| 7 | 1 | | 0 | 5 | 3 | 7 | 16 | 18日 | 48人 | 2.7人 |
| 8 | 1 | | 0 | 5 | 2 | 6 | 14 | 16日 | 49人 | 3.1人 |
| 9 | 1 | | 1 | 5 | 2 | 7 | 16 | 18日 | 51人 | 2.8人 |
| 10 | 1 | | 0 | 5 | 4 | 8 | 18 | 18日 | 64人 | 3.6人 |
| 11 | 1 | | 1 | 4 | 3 | 8 | 17 | 16日 | 46人 | 2.9人 |
| 12 | 1 | | 1 | 3 | 4 | 7 | 16 | 17日 | 33人 | 1.9人 |
| 1 | 1 | | 1 | 4 | 4 | 8 | 18 | 16日 | 34人 | 2.1人 |
| 2 | 1 | | 1 | 2 | 5 | 7 | 16 | 16日 | 40人 | 2.5人 |
| 3 | 1 | | 1 | 2 | 7 | 8 | 19 | 18日 | 52人 | 2.9人 |
| 合計 | 障がい者 | 10 | | | | | 192 | 204日 | 535人 | 2.6人 |
| | 要介護者 | | | 6 | 47 | 43 | | | | |

《 評 価 》

ご利用者で今年度亡くなられた方は4名でした。また、現在の利用者は17名です。昨年と比較すると稼働日数では4日多く、延利用数では59名の方が多く入浴できました。

今年度より、重度障がい者の方も入浴を行うようになり利用者の拡大に繋がりました。

ご利用者等と向き合いながら、状態に応じた入浴をこれからも続けていきたいと思えます。



1. 基本方針について

ご利用者の有する能力に応じ、生きがいを持ち、自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の援助及び余 活動を通して を維持していけるよう、個々の特性を踏まえながら実施してきました。

- (1) 入浴については、入浴形態の変更や浴槽内での体調に留意し安全且つ、快適な入浴をして頂けるように支援を行ってきました。
- (2) 排泄については、自力で排泄が行えるように安楽な排泄方法を指導し、また、介助を要する方には、トイレで排泄を支援することで、すっきり感を感じて頂けるように、持てる能力を活かした支援等に努めてきました。
- (3) 食事については、厨房と連携を密にし、味覚だけでなく視覚でも美味しく楽しめるような行事食を多く取り入れてきました。
嗜好についても個人にあった食事を提供できるように努めてきました。

2. 具体的な施策について

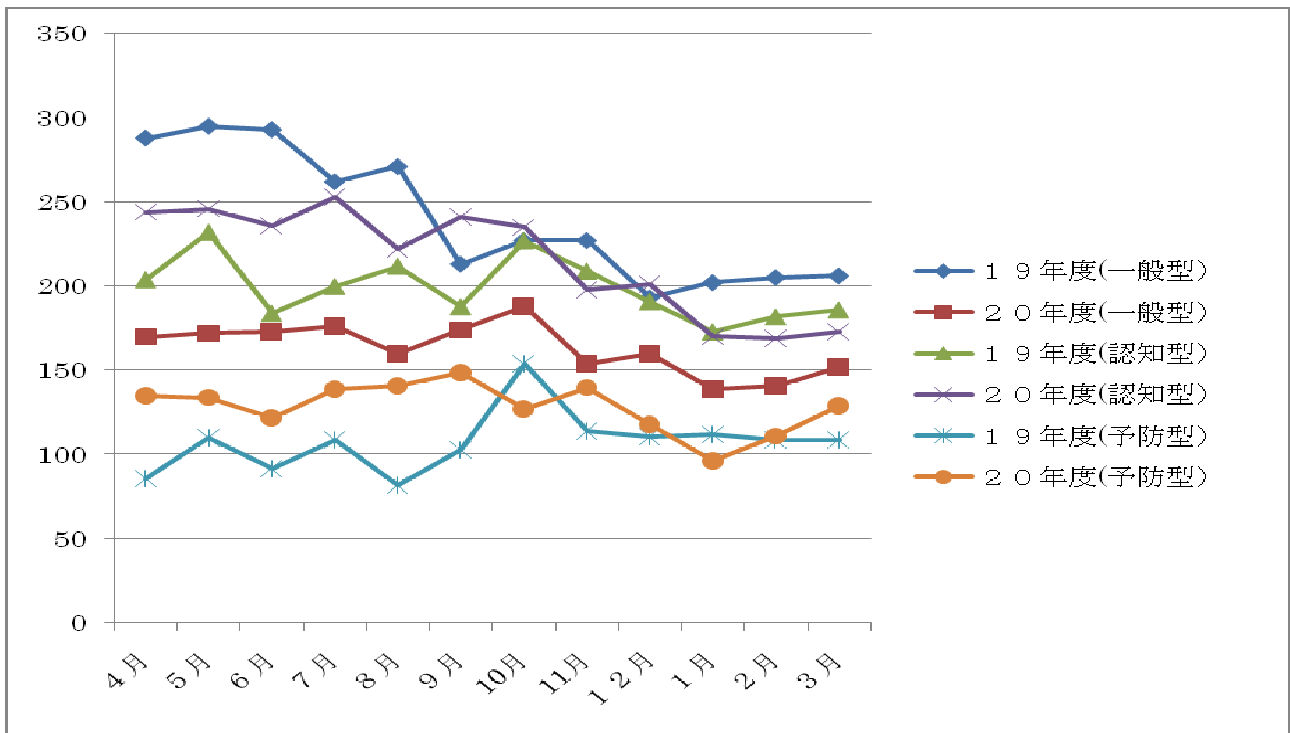
(1) 重点強化項目

- ① の強化と向上については、複合的要素を組み合わせ無理なくできる運動などを提供し、楽しく参加して頂きました。
ア. 心身の健康や身体機能の維持及びレベルアップを目指し、できる限り運動に参加して頂けるように、体操や日常動作訓練、レクリエーション、ミニ運動会など、多様なメニュー を提供し支援してきました。
イ. 口腔内洗浄及び嚥下機能の維持を目指し、うがいや の運動、発声練習、嚥下体操等を毎日実施し支援してきました。
- ② ご利用者同士の交流
ご利用者同士、和やかに談話されたり楽しい時間を過ごされている姿が見られました。
- ③ 地域ふれあいコース（都合により中止となりました。）
- ④ 行事食について
毎月、旬の食材を使用し りにも配慮し提供してきました。メニューの中でもぼた餅も大変喜ばれ美味しそうに食べていました。
- ⑤ 喫茶の日（毎月第2週目に実施）
楽しみにされている方が多く大好評でした。厨房の職員にも協力を頂き、目の前での手作りのおやつが提供され、大変喜ばれていました。
- ⑥ 花見・ 葉ドライブについては、天候に左 され、目的地に到着しても、車から外に出られず、車中にて外を眺めることありました。

3. デイサービス利用者数実

デイサービス利用者実 (平成19・20年度)

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 延人数 | 平均 |
|----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|
| 19年度(一般型) | 288 | 295 | 293 | 262 | 271 | 213 | 227 | 227 | 193 | 202 | 205 | 206 | 2,882 | 240.2 |
| 20年度(一般型) | 170 | 172 | 173 | 176 | 160 | 174 | 188 | 154 | 160 | 139 | 141 | 152 | 1,959 | 163.3 |
| 19年度(認知型) | 204 | 232 | 184 | 200 | 212 | 188 | 227 | 209 | 191 | 173 | 182 | 186 | 2,388 | 199.0 |
| 20年度(認知型) | 244 | 246 | 236 | 253 | 222 | 241 | 235 | 198 | 201 | 170 | 169 | 173 | 2,588 | 215.7 |
| 19年度(予防型) | 86 | 110 | 92 | 109 | 82 | 103 | 154 | 114 | 111 | 112 | 109 | 109 | 1,291 | 107.6 |
| 20年度(予防型) | 135 | 134 | 122 | 139 | 141 | 149 | 127 | 140 | 118 | 96 | 111 | 129 | 1,541 | 128.4 |
| 20年度利用延人数(人) | 549 | 552 | 531 | 568 | 523 | 564 | 550 | 492 | 479 | 405 | 421 | 454 | 6,088 | 507.3 |
| 開所日数 | 26 | 27 | 25 | 27 | 26 | 26 | 27 | 25 | 24 | 23 | 24 | 26 | 306 | 25.5 |
| 20年度平均利用者数(人日) | 21 | 20 | 21 | 21 | 20 | 22 | 20 | 20 | 20 | 18 | 18 | 17 | 238 | 19.8 |



4. 行事・活動報告

| 月 | 日 | 行事内容 | 評価 |
|---|----------------|---|---|
| 4 | 21～ | 花見 大倉ダム（前半3日間）飯桶 の社の桜並木（後半3日間）を 見学し記念写真を撮りました。その 後、帰宅中にある桜の花を見ながら 帰宅しました。 | 今年は、桜が綺麗に ぎ、大倉では車から降りて 策される方、記念写真を撮られる方など思い思いに楽しまれていました。大 社では、降りる方が少なく車からの見学で終わってしまったことが残念でした。（風が冷たい・降りるのが面 という声が多かった）（6日間で114名参加） |
| 5 | 8 27 28～ | 花植え（マリーゴールド） 花植えした場所の草むしり 第1回レクリエーション大会 に分れて、お手玉リレー、玉入れ、 デスゲッター、スポーツ き 等 心身のリフレッシュを目的に行いました。 | ご利用者と協力して、きれいに定植することができた。 普段とは違う雰囲気の中で一人ひとりが真 に取り組む姿が見られた。 |
| 6 | ～13 23 | 同上 デイスサービス前の草むしりとマリー ゴールドの花植えを行った。 | 5 28、6 5、6 13(3日間の合計参加者数、65名)全種目に挑戦される方、勝つと喜び、負けるともう1回と再挑戦しようという意欲的な態度を見せられる方等、熱い姿がとても印象的でした。 ご利用者の協力によりきれいに植えることができました。 |
| 7 | 1週目 | 夕 利用者の方に願い事を短 に書いて もらい、 に飾り付けしました。 | 自分で書けない方は職員と一緒にいき、また、皆さんの素敵な笑顔を写真に収めました。（願い事が叶いますようにとの声が聞かれました。） |
| 8 | 26～ | 第2回レクリエーション大会 に分れてのピンポン玉リレー、 デスゲッター、うちわで風船入れ、的 あてゲーム、玉入れ、ボール投げゲーム 等を行いました。 | いつもとは少し違う種目もありましたが、皆さん和気あいあいとされていて、とても楽しそうでした。ご利用者共々職員も盛り上がりながら行え良かった。 ※一部、各種目の配置や組み分け・手順等を前もって伝えることができず職員及びご利用者が困惑し、不愉快な思いをさせてしまったことが残念。次回からは細かい部分へも確認をしながら進めて行きたい。 8 26、28、30、9 5、17(5日間の合計参加者数95名) |
| 8 | 26～ | 第2回レクリエーション大会 利用者が に分れてのピンポン玉 リレー、デスゲッター、うちわで風船 入れ、的あてゲーム、玉入れ、ボール 投げゲーム等を行いました。 | いつもとは少し違う種目もありましたが、皆さん和気あいあいとされていて、とても楽しそうでした。利用者共々職員も盛り上がりながら行えて良かった。 ※各種目の配置・組み分け・手順等を前もって伝えることが出来ず職員及び利用者が困惑し、不愉快な思いをさせてしまったことが残念に思う。次回からは細かい部分へも確認をしながら進めて行きたい。 8 26.28.30、9 5.17(5日間の合計参加者数、95名) |
| 9 | ～17 | 同上 | |

| | | | |
|----------|------------|--|---|
| 10 | 27～ | <p>葉ドライブ あいの沢で「あいの 」を渡り山々や の景色を眺める方、写真撮影をされる方、車内から景色を眺め楽しむ方、それぞれに秋を感じていたようです。</p> | <p>近い場所ということもあり、あいの沢にて実施し、きれいな 葉を見ることができました。 近場なため車 いする方も参加できて良かった。しかし、天気は良かったものの風が冷たく寒い日は「寒いから…」と車から降りない方もいたので、新 の時期や暖かい時期のドライブも考えていきたい。 (5日間で100名参加)</p> |
| 11 | 10～ 25～ | <p>芋煮会（芋煮 ） 第3回レクリエーション大会 利用者が に分れてのピンポン玉リレー、デスゲッター、 投げ、玉入れ等を行いました。</p> | <p>目の前で鍋からお に盛り、熱々の芋煮を食べることができ、皆さん美味しそうに口に運び、季節の味覚を味わって頂くことができました。 ご利用者にあったレクリエーションを考え実施することができた。和気あいあいとした雰囲気の中で皆さんに楽しんで参加して頂けてよかった。 11 25～29(5日間の合計参加者84名)</p> |
| 12 | 18 | <p>100歳のお祝い 【大久保 様】 当日のご利用者、職員の方々でお祝いをしました。</p> | <p>おやつ時間に、ぼた餅のケーキでご利用者、職員でお祝いをする事ができました。本人も嬉しそうな表情でぼた餅を食べて頂けたことは大変良かったと思います。</p> |
| 1 | 8 13 | <p>書初め 団子刺し</p> | <p>普段 を書く機会が少ない方が多いことが分かり、今後、レクリエーションで検討したい。 飯樋地区のミニデイサービスの方々が団子の と を持参し、一緒に を丸めて一ごとに丁寧に刺して行きました。参加された方は楽しそうに昔からの行事に参加することができ良かったと思います。</p> |
| 年間行事を通して | | <p>【 誕生会 】 今年度は、毎月行いました。（誕生日もしくは近い日に行いました。 職員が手作りした写真入りの見開きのカード作成し、利用者同士でプレゼントしあって記念撮影なども行っています。</p> <p>【 喫茶コーナー 】 毎月第2週目を実施してきました。 コー ー・ 茶・ココア・ジュース・お茶類等を利用者に好みの飲み物を聞きおやつ時間に提供してきた。</p> <p>【 行事食 】 毎月第4週目に、季節の食材で った美味しい食事を楽しんで頂く事により、利用者に喜んで頂けた。</p> | <p>誕生月にお祝いができ、ご利用者によるご利用者のための誕生会という理想に近づくことができ良かったと思います。 反省点 事前準備や話し合い不足もあった。 今後も、できる限りご利用者や職員がそろい、温かい雰囲気の中で誕生会をスムーズに行っていきたい。</p> <p>前半はクッキーやカステラ、ドーナッツ等が提供されたが、後半は厨房手作りのお子もあり、お茶の時間に華を添えることができ、大変喜んで頂きました。 反省点 一方で飲み物に飽きたのか、普段の を注 される方の姿が見られるようになってきた。</p> <p>ぼた餅が目前に出てきた時の表情はとても嬉しそうで美味しそうに食べていました。重 当はボリュームがあり大 夫かな？と思いましたが完食されていた方が多かったようです。 反省点 毎月第4週目を実施したということもあり、参加する機会に恵まれない方もおられたので、全てが参加できるような予定を検討する必要があります。</p> |

平成20年度各委員会の反省

1. 行事委員会

(1) 花見ドライブ

4月21日～4月23日は大倉の真野ダム の桜を見学、24日～26日は飯樋の大社の桜を見学、その後、帰宅コースにある桜の名所（長 の 、山 見 社など）を經由して帰宅。風が冷たいためか目的地に到着しても車から降りて 策される方が少なく残念でした。しかし、移動中の車から桜を眺め喜ばれていました。

(2) レクリエーション大会

心身のリフレッシュを図ることを目的で行いました。普段と違う雰囲気の中で、一人ひとりが真 に取り組む姿が見られました。応援したり応援されたりと和気 々の中で楽しい時間を過ごすことができました。（ご利用者にあったレクリエ ションを実施することができ、皆さん楽しく参加されていました。次年度も希望を取り入れご利用者に合った内容を検討していく。）

(3) 7月 採り・ け

収穫時期を見ながら、収穫に應じて行いたいと考えていましたが、いつもより の実のつき具合が悪く けることができませんでした。次年度は の実のなり具合と収穫時期を見ながら少しでも けることができるよう計画したい。

(4) 葉ドライブ

秋の季節感をあじわい、気分のリフレッシュとふれあいを深めて頂くことを目的に、10月27日（月）～30日（木）・11月1日（土）15時35分から帰宅時、ドライブをかねて秋の色 豊かな山々の景色を眺めながら 葉ドライブを実施。前半は、 葉には少し早かったものの、後半にかけてはとても綺麗な山を見ることができ大変喜ばれていました。目的地に到着しても車から降りて 策される方が少なかったものの、車中から景色を眺め喜ばれていました。

(5) 芋煮会

11月1週目に芋煮会を実施。目の前で鍋からお に盛り、熱々の芋煮 を食べることができ、皆さん美味しそうに口に運び、楽しく芋煮会を実施することができました。

次年度は、ご利用者自身が調理できるように検討したいと思います。

(6) 誕生会プレゼント

誕生日に近い日に実施した。（突然休まれる方もおり、遅れて渡す場合もあった。）

プレゼントを手渡し、ハッピーバースデーの歌を全員で歌いお祝いをしました。写真入カードのプレゼントを手に嬉しそうな笑顔を見ることができた。お祝いカードは掛けや るすることができるもので、ご家族の方からも好評を得た。次年度も更に喜ばれるような内容を工夫し継続していきたいと思います。

(7) 喫茶コーナー

毎月、第2週目毎に一週間実施してきました。いつもの雰囲気と違い、飲み物と手作りのお 子を口に、昔話に華を かせ楽しい時を過ごしていたようです。手作りのお 子は大変好評で喜ばれています。（季節の物での手作りは最高でした）次年度は、ご利用者が作る楽しみを持てるように検討したいと思います。

(8) 行事食

季節に應じ、お 食（ の内風）や、ぼた餅等を提供することができました。とても喜んで頂け、美味しそうに 張る姿や表情が見ることができました。（特にぼた餅は好評でした）月1回の行事食を、楽しみにしている方も多く次年度も継続したいと

思います。

2. 広報委員会

(1) 年4回の茶囲夢の発行

デイサービスでのレクリエーション、誕生会、ドライブなど、楽しく参加している様子を介することができ、ご利用者はもとよりご家族の方からも好評を得ました。

(2) 月一回程度の情報の掲示（月末もしくは、月初めには掲示を行う。）

誕生者や行事等の掲示は月1回掲示することができました。ただ、同じような内容が多くあったため、関心を持って頂けるような内容に工夫をしていきたい。

(3) 写真の掲示

行事委員や環境委員と協力し、行事等で多くの写真撮影をし、ご利用者のとてもよい表情を掲示できるようにしてきました。普段の何気ない表情や熱心な様子などもカメラにおさめ掲示をしてきました。

3. 環境委員会

(1) 5月 花植え

マリーゴールド、サルビア等の花をご利用者と一緒に植えました。

天候・害等の原因により、綺麗にかせることができませんでした。次年度は一緒に野菜づくりに、今年以上に取り組んで行く。（収穫する楽しみがあることや一つのことを皆でやり遂げたという気持ちがよかった）

(2) 6月・9月・12月 床ワックスがけ（随時）

きれいな部屋等を提供することができた。

(3) 12月 大掃除

床ワックスがけ・大掃除については、職員全員で行いました。高いところなど十分にできないところがあり、次年度は再度検討し実施したい。

窓ガラス掃除は、3ヶ月毎の計画を予定どおり実施しました。

(4) 写真の掲示

写真の掲示は、行事委員会、広報委員会と協力し2ヶ月～3ヶ月毎に実施してきました。

4. 感染症対策委員会

(1) 食中毒、インフルエンザ予防等のパンフレットを配布

結果 「パンフレットを配布した」ということのみで、実際にご家族の方々からの反響がなく残念だった。次年度は周知方法を再度検討し進めたい。

インフルエンザの予防接種率としては、約80%の方々が予防注射を実施。

ご利用者の方には、注意を口頭で促したりテーブルにパンフレット等を置き、目を通して頂くなど、感染症について感心を持って頂けたことは良かったと思います。

(2) 次年度の活動として

食中毒の声かけやパンフレット掲示を早めに行い、早めの対策・予防に努めていく。クリアファイル等を活用し、ご利用者に身近に確認できる様に工夫もしていきたい。

1. 基本方針について

介護保険の基本理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」「自分らしい生活の継続」及び「自立支援」を基本とし、常に利用者の意向を踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を作成し、そのプランに沿ってサービスが提供されるよう多種多様の事業者と連絡調整しながら、在宅での生活が継続できるよう行ってきました。

(1) 利用者・家族の信頼を得るについて

・コミュニケーションを大事にする様に、訪問や電話での連絡回数を増やすように努めてきた。

(2) 利用者・家族の課題を正確にとらえるについて

・アセスメントを正確に行うように努めてきた。

(3) 利用者・家族への情報提供をするについて

・必要としている制度情報やサービス情報を適切に提供するように努めてきた。

(4) モニタリングを行うについて

・毎月1回以上訪問し、状態にあったサービスが提供できるよう努めてきた。

(5) 利用者の立場に立つについて

・常に利用者の立場に立ち対応することに努めてきた。

2. 具体的な施策について

(1) アセスメント（課題分析）について

・利用者と家族の意向等を把握し、解決すべき課題や生活行為等に対する可能性を出し、それらに基づく目標を導き出すように努めてきた。

(2) サービス担当者会議（ケアカンファレンス）について

・利用者や家族、サービス事業所が参加することにより、生活への要望や課題を直接会って確認することで、その思いをチーム全員が共有できると共に、利用者と家族が「支援チーム」に支えられているという実感をもって頂くように努めてきた。

(3) モニタリング（サービス実施状況の把握及び評価）について

・モニタリングは、利用者に対する継続的なアセスメントでもあり、利用者や家族の要望や苦情を言い易いような関係を築いていくと共に、一層サービスの実施状況も確認するように努めてきた。

(4) 居宅サービス計画の見直し（再アセスメント）について

・モニタリングの結果より、ケアプラン変更の必要性が生じたら、その内容を確認し利用者の状態の変化及びニーズを把握し再アセスメントを行い居宅サービス計画を見直し作成するように努めてきた。

(5) 給付管理について

・給付管理票を作成し、毎月10日までに市の国民健康保険団体連合会に提出してきた。

平成20年度 給付管理状況

| 月 | 件数 | 金額 | 月 | 件数 | 金額 |
|----|------|------------|-----|------|-------------|
| 4月 | 121件 | 1,622,900円 | 10月 | 117件 | 1,586,650円 |
| 5月 | 122件 | 1,628,450円 | 11月 | 117件 | 1,575,700円 |
| 6月 | 122件 | 1,634,750円 | 12月 | 119件 | 1,602,150円 |
| 7月 | 124件 | 1,657,750円 | 1月 | 118件 | 1,594,700円 |
| 8月 | 115件 | 1,548,300円 | 2月 | 116件 | 1,559,800円 |
| 9月 | 111件 | 1,498,850円 | 3月 | 117件 | 1,571,300円 |
| 合計 | | 1,419件 | | | 19,081,300円 |

3. 重点事業目標について

- (1) ケアマネジメントの充実について
- (2) ケアマネジメントの基本プロセスの充実について
 - ・アセスメントを十分に行い、利用者の真の状態を把握するよう努めてきた。
- (3) サービス担当者会議の充実について
 - ・毎月1回開催し、サービス担当者がケア方針をもたないまま各サービスが提供されないよう、ケアプランに組み込まれたサービスが要介護状態の維持と改善に繋がるよう努めてきた。
- (4) 主治医をはじめとした他職種連携の充実について
 - ・利用者の生活課題の解決に努めるよう、主治医はじめ様々な生活援助サービスとの連携を十分とるよう努めてきた。
- (5) 継続的なケアマネジメントの充実について
 - ・利用者の状態変化に応じて、継続的に適切なサービスが提供されるように支援し、在宅と病院間で入退院を繰り返す場合等の利用者にも継続的なケアマネジメントが実施できるよう努めた。
- (6) 平・中立性について
 - ・居宅介護支援事業所が施設に設置されていることから、ケアプランに施設事業所のサービスがかたよらないように努めてきた。しかし、訪問介護事業所や通所介護事業所が村内に1ヶ所しかなく、利用者が集中している為、毎年9月と3月の年2回特定事業所集中減算における正当な理由書を提出し、減算対象外事業所となっている。

4. 介護支援専門員の質・専門性の向上について

- (1) 専門知識・技術向上を図る為に、研修会に参加し、周知徹底に努めてきた。
 - ・東ブロック老人福祉施設大会（ ） 1名参加
 - ・ 際福祉機器展示会（東 ） 1名参加
 - ・福祉用具・住宅環境改善住宅改修（二本 ） 1名参加
- (2) 利用者から不満や苦情があれば、迅速かつ適切な対応が図れるように努めてきた。
 - ・福祉サービスに関する苦情解決研修会（山市） 1名参加
 - ・苦情解決研修会介護保険サービスにおける苦情解決研修会（南相馬市） 1名参加
- (3) 密保持厳守、及び個人情報の取り扱いを適正に行うように努めてきた。
 - ・年度当初の定例会にて、勉強会を行った。
- (4) 困難事例ケース検討、及び新規ケースの情報を共有することにより、事業所全体で当事業所居宅 頼ケースのケアに取り組むように努めてきた。
 - ・困難事例については、地域包括支援センターや他事業所とケース検討を行った。

- ・新規ケースについては、毎月開催している定例会にて情報の共有を行った。

5. 在宅介護への支援について

- (1) 介護保険制度及びサービス内容の周知に努めてきた。
- (2) 介護方法及び社会資源の利用についての周知に努めてきた。

飯舘村地域包括支援センター主催の、認知症介護・予防教室に参加し、グループホームヨッシーの大加子先生の講演に参加した。

| 開催日 | 対象地区 | 参加人数 |
|-------------|----------|-------|
| 平成20年10月31日 | 草野地区 | 16名 |
| 10月31日 | 二枚地区 | 12名 |
| 平成20年11月6日 | 飯樋町地区 | 24名 |
| 11月6日 | 大倉地区 | 16名 |
| 11月8日 | 前田・八和木地区 | 8名 |
| 合計 | 5回開催 | 76名参加 |

- (3) 行区単位の介護者の集い（地区のお茶のみ会）を飯舘村地域包括支援センターと開催し、介護者のメンタルケアの充実を図ってきた。

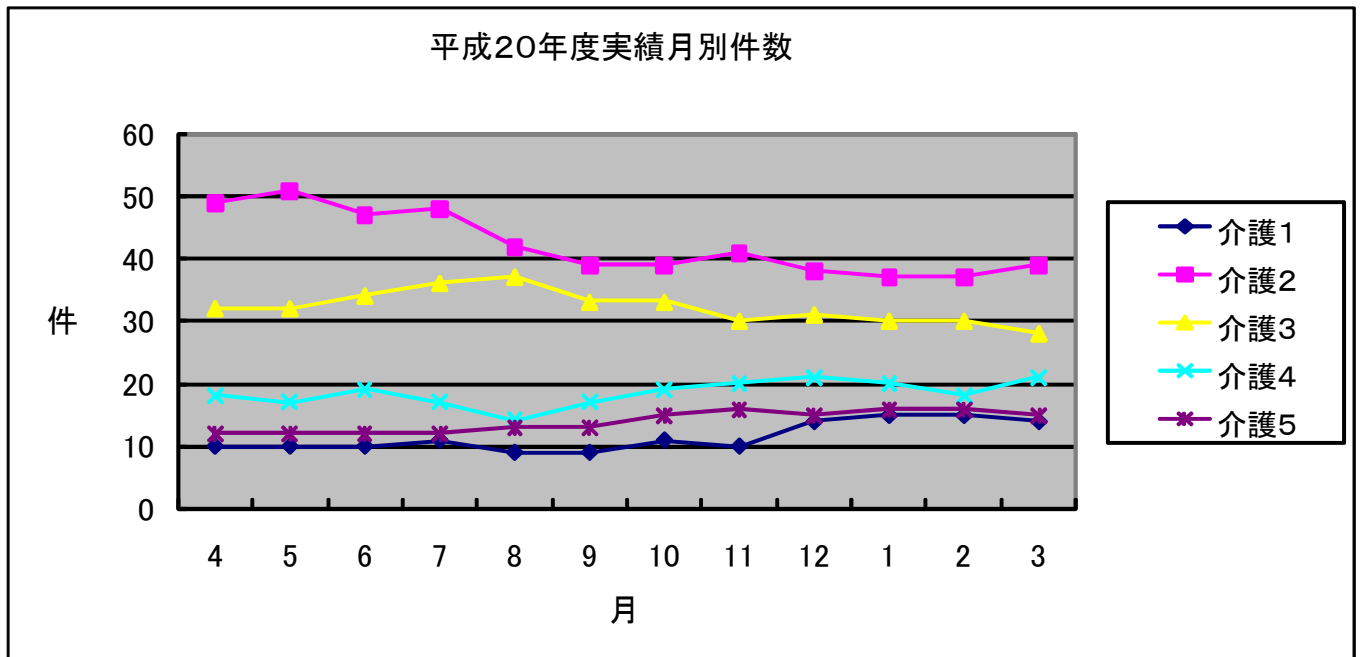
| 開催日 | 対象地区 | 参加者 |
|----------|-------------|------------------------|
| 2月16日（月） | 民 | 民生委員1、一般参加1 |
| 2月17日（火） | 比集会所 | 介護者5 |
| 2月18日（水） | 草野会 | 介護者3、民生委員1 |
| 2月19日（木） | 臼集会所 | 介護者1、民生委員2 |
| 2月20日（金） | 長コミュニティセンター | 介護者1、民生委員1、一般参加1 |
| 2月23日（月） | 大倉消防所 | 介護者3、民生委員1、一般参加2 |
| 2月24日（火） | 沢集会所 | 介護者1、民生委員1 |
| 2月25日（水） | 前田民 | 介護者1、民生委員1、一般参加1 |
| 2月26日（木） | 飯樋町集会所 | 民生委員2 |
| 2月27日（金） | 内会 | 介護者2 |
| 3月2日（月） | 二枚会 | 介護者1、民生委員1、区長1 |
| 3月3日（火） | 平民 | 介護者3、民生委員1 |
| 3月5日（木） | 深集会所 | 民生委員1、区長1 |
| 合計 | 13会場 | 介護者21、民生委員13、区長2、一般参加5 |

6. 各関係機関との連携の強化について

- (1) 地域包括支援センターを始め、各関係機関との連携をにし利用者のニーズに沿ったケアマネジメントが行えるよう努めてきた。

平成20年度ケアプラン作成件数推移

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 延件数 | 月平均 |
|--------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 見込要介護1 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 210 | 18件 |
| 介護1実 | 10 | 10 | 10 | 11 | 9 | 9 | 11 | 10 | 14 | 15 | 15 | 14 | 138 | 12件 |
| 見込要介護2 | 52 | 53 | 54 | 55 | 56 | 57 | 58 | 59 | 60 | 61 | 62 | 63 | 690 | 58件 |
| 介護2実 | 49 | 51 | 47 | 48 | 42 | 39 | 39 | 41 | 38 | 37 | 37 | 39 | 507 | 42件 |
| 見込要介護3 | 35 | 35 | 34 | 33 | 33 | 33 | 32 | 32 | 32 | 32 | 32 | 32 | 395 | 33件 |
| 介護3実 | 32 | 32 | 34 | 36 | 37 | 33 | 33 | 30 | 31 | 30 | 30 | 28 | 386 | 32件 |
| 見込要介護4 | 14 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 13 | 12 | 12 | 11 | 11 | 10 | 148 | 12件 |
| 介護4実 | 18 | 17 | 19 | 17 | 14 | 17 | 19 | 20 | 21 | 20 | 18 | 21 | 221 | 18件 |
| 見込要介護5 | 14 | 14 | 14 | 14 | 13 | 12 | 12 | 12 | 11 | 11 | 10 | 10 | 147 | 12件 |
| 介護5実 | 12 | 12 | 12 | 12 | 13 | 13 | 15 | 16 | 15 | 16 | 16 | 15 | 167 | 14件 |
| 見込総件数 | 127 | 128 | 129 | 130 | 131 | 132 | 133 | 134 | 135 | 136 | 137 | 138 | 1,590 | 133件 |
| 実件数 | 121 | 122 | 122 | 124 | 115 | 111 | 117 | 117 | 119 | 118 | 116 | 117 | 1,419 | 118件 |
| 1人平均実 | 30.3 | 30.5 | 30.5 | 31.0 | 28.8 | 27.8 | 29.3 | 29.3 | 29.8 | 29.5 | 38.7 | 39.0 | | 30.8件 |



平成20年度 飯舘村地域包括支援センター事業報告

1. 総合相談業務

村内に住む高齢者の様々な相談を受け止め、適切な機関、制度、サービスに繋ぎ、継続的にフォローできるように身近な相談機関として活動してきました。

(1) 地域におけるネットワーク構築業務

① 地域高齢者・婦人会へのP

地域包括支援センターの役割を知っていただくため、婦人会役員、老人クラブ役員を対象に講演会、普及広報活動実施

| 開催日 | 曜日 | 対象者 | 参加人数 |
|------------|----|----------|------|
| 平成20年4月9日 | 水 | 婦人会役員 | 32名 |
| 平成20年4月11日 | 金 | 村老人クラブ役員 | 46名 |
| 平成20年4月15日 | 火 | 民生委員会 | 29名 |
| 平成20年8月28日 | 金 | 民生委員会 | 24名 |
| 合計 | | 5回開催 | 131名 |

② 地域ネットワーク構築

地域での見守りのネットワークは、民生委員を中心に見守りしていかなければならない方を見守りして頂きました。民生委員や近所の方とは、随時連携をとりながら専門機関へも繋がりました。関係機関との連携は、地域ケア会議を中心に、各機関の役割を確認しながら「住みなれた我が家で自分らしく過ごせるよう」支援してきました。

《評価と課題》

民生委員との連携、各関係機関との連携も徐々に取りれるようになり、困難事例への対応もできてきたように思います。

(2) 総合相談支援業務

総合相談業務の中では、生活全般に関することが主になりました。これらは一人暮らし、二人暮らしの方の見守り等の実態把握の訪問によるものです。

| 業務内容 | 平成18年度 | | 平成19年度 | | 平成20年度 | |
|--------------|--------|------|--------|------|--------|------|
| | 実数 | 延べ件数 | 実数 | 延べ件数 | 実数 | 延べ件数 |
| 生活全般に関すること | 67名 | 99件 | 90名 | 164件 | 126名 | 173件 |
| 医療及び受診に関すること | 13名 | 23件 | 25名 | 41件 | 34名 | 48件 |
| 介護及び制度に関すること | 32名 | 68件 | 123名 | 281件 | 77名 | 136件 |
| 社会保障制度に関すること | 4名 | 5件 | 6名 | 6件 | 9名 | 13件 |
| その他の相談及び対応 | 33名 | 45件 | 100名 | 222件 | 172名 | 248件 |
| 合計 | 149名 | 240件 | 344名 | 714件 | 418名 | 618件 |

《評価と課題》

① 地域の中での安心できる拠点としての役割

三年目になり、包括支援センターも少し分かって頂けるようになりました。身近な存在として直ぐ相談できるよう「地区担当制」をとり、特に訪問見守りが必要な方は、必要に応じて訪問できる体制をとってきたことは良かったと思います。

② 様々な内容について総合的に相談できる仕組みづくり

多様な相談に対応する為に、居宅支援事業所、役場、福祉協議会等との連携を図っ

てきました。また、訪問が必要なときにはタイムリーな訪問ができる体制を整えられたことも良かったと思います。

2. 包括的継続的ケアマネジメント支援業務及び権利 護業務

高 者が住みなれた地域で暮らし続けることができるよう、各関係機関と連絡調整を密にし、包括的継続的に支援するよう努めてきました。

今年度は、地域ケア会議を核に処 困難事例や各関係機関が具体的にケースに係わるかなど、話し合いながら活動してきました。

(1) 業務内容

| 業 務 内 容 | 実 数 | 延べ件数 |
|----------------|-----|------|
| 高 者等の実態把握 | 4名 | 4件 |
| ケアマネ支援に関すること | 1名 | 1件 |
| 地域ネットワークに関すること | 3名 | 4件 |
| 地域ケア及び個別ケア会議 | 31名 | 33件 |
| 処 困難事例に関すること | 2名 | 26件 |
| 権利 護に関すること | 0名 | 0件 |
| 合 計 | 41名 | 68件 |

(2) 地域ケア会議 月1回開催

| 検 討 内 容 | 件 数 |
|--------------|------|
| 家族介護用品給付事業 | 176件 |
| 高 者快適住まい助成事業 | 8件 |
| 配食サービス事業 | 1件 |
| 困難事例検討 | 15件 |
| 地域おたすけあい事業 | 7件 |
| 計 | 207件 |

《評価と課題》

- ① 地域ケア会議については給付事項が多かった。困難事例では、地域ケア会議で話し合ったことにより、各関係機関が連携し各事例に対し支援することができました。
- ② 介護支援専門員への相談や個別指導においては、共に学習検討してゆく姿勢で活動してきました。困難事例が出たときには、事業所が隣接しているため、その都度話し合いながら皆で考えてきました。

3. 介護予防ケアマネジメント業務

地域の高 者の方が、住みなれた地域で安心して生活を継続することができるようにするため、本人ができることはできる限り本人が行うことを基本として、ケアマネジメントを行ってきました。

(1) 要支援1・2のケアマネージメント

| | 平成18年度利用者 | 平成19年度利用者 | 平成20年度利用者 |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| 4月 | 0名 | 32名 | 46名 |
| 5月 | 3名 | 35名 | 45名 |
| 6月 | 6名 | 33名 | 45名 |
| 7月 | 8名 | 34名 | 44名 |
| 8月 | 11名 | 36名 | 48名 |
| 9月 | 16名 | 37名 | 51名 |
| 10月 | 16名 | 44名 | 50名 |
| 11月 | 17 | 43名 | 50名 |
| 12月 | 20名 | 42名 | 49名 |
| 1月 | 22名 | 43名 | 41名 |
| 2月 | 25名 | 44名 | 42名 |
| 3月 | 27名 | 44名 | 42名 |
| 合計 | 171名 | 467名 | 553名 |

(2) 特定高齢者のケアマネージメント

| 介護予防プログラム | 参加人数 |
|-----------|------|
| 口腔器機能向上事業 | 9名 |
| 運動器機能向上事業 | 15名 |

《評価と課題》

- ① 要支援1・2のケアマネージメントに於いては、本人の意欲を十分に引き出しながらご利用者のできることを多くしていくよう支援してきました。しかし、要支援はサービス料金が月額のため、要支援2になると逆に料金が高くなり通所回数を減らす方もみられ制度の不具合も感じられます。
- ② 要支援1・2のケアマネージメントは、平成18年度は171名、20年度は467名と徐々に増えてきています。
- ③ 特定高齢者に於いては、運動・口腔機能向上の2事業のマネージメントを行ってきました。

各事業とも参加なされたかたの感想をお聞きすると「参加して良かった。」との声が聞かれました。また、施行前後の評価でも効果は表れているようです。

4. 委託業務

(1) 家族介護者支援事業（家族介護教室）

平成20年度の区 回型介護教室は、各地区で老人会、婦人会を中心に行いました。日時・開催場所・内容をできるだけ希望に応じて対応しました。内容については、「地域包括支援センターの介」・「介護予防のためのこころがけ」「介護保険使用状況」等を中心に実施してきました。また、体験型・訪問型の教室は、村社会福祉協議会と共催で実施し、「高齢者の食べやすい食事作りや高齢者の疑 体験」「車椅子体験」を実際に体験してみるにより、高齢者を身近に感じ取ってもらうことを目的に実施いたしました。新たに認知症介護・予防教室を講師にグループホームヨッシーの大 加子先生をお迎えし、関係機関と共催で開催しました。

① 各地区 回型

| 開催日 | 曜日 | 対象者 | 参加人数 |
|------------|----|--------------|--------|
| 平成20年5月 8日 | 木 | 深 ミニデイサービス | 24名 |
| 6月18日 | 水 | 一人暮らし会食会 | 45名 |
| 6月28日 | 土 | 比 婦人会 | 12名 |
| 7月 4日 | 金 | 草野婦人会 | 23名 |
| 7月22日 | 火 | 飯樋町老人クラブ | 40名 |
| 7月22日 | 火 | 二枚 ミニデイサービス | 22名 |
| 8月26日 | 火 | 平ミニデイサービス | 13名 |
| 9月 5日 | 金 | 八木沢・ 原婦人会 | 5名 |
| 9月 8日 | 月 | 大倉ミニデイサービス | 11名 |
| 9月26日 | 金 | 八木沢・ 原ミニデイ | 19名 |
| 12月 7日 | 日 | 大久保・外内介護予防教室 | 16名 |
| 12月 7日 | 日 | 内地区介護予防教室 | 16名 |
| 平成21年1月21日 | 水 | 草野ミニデイサービス | 23名 |
| 1月22日 | 木 | 臼 ミニデイサービス | 19名 |
| 2月12日 | 木 | 比 ミニデイサービス | 14名 |
| 2月24日 | 火 | 二枚 ミニデイサービス | 14名 |
| 3月 4日 | 水 | 関沢ミニデイサービス | 22名 |
| 3月10日 | 火 | ミニデイサービス | 25名 |
| 合 計 | | 18回開催 | 363名参加 |

② 体験型（小学生） ボランティアスクール参加者（社会福祉協議会と共催）

| 開催日 | 曜日 | 対象者 | 参加人数 |
|-----------|----|---------------|----------|
| 平成20年8月5日 | 火 | 村内の全小学生を対象に開催 | 12名 |
| 平成19年8月6日 | 水 | 村内の全小学生を対象に開催 | 12名 |
| 合 計 | | 村内の全小学生 2回開催 | 合計 24名参加 |

③ 学 訪問型

| 開催日 | 曜日 | 対象者 | 参加人数 |
|-------------|----|---------------|--------|
| 平成20年6月 18日 | 水 | 飯館中3年生 | 68名 |
| 平成21年2月 13日 | 月 | 草小3・5・6車椅子体験 | 70名 |
| 合 計 | | 1中学、1小学、 2回開催 | 138名参加 |

④ 認知症介護・予防教室

| 開催日 | 曜日 | 対象者 | 参加人数 |
|-------------|----|----------|-------|
| 平成20年10月31日 | 金 | 草野地区 | 16名 |
| 10月31日 | 金 | 二枚 地区 | 12名 |
| 平成20年11月 6日 | 木 | 飯樋町地区 | 24名 |
| 11月 6日 | 木 | 大倉地区 | 16名 |
| 11月 8日 | 土 | 前田・八和木地区 | 8名 |
| 合 計 | | 5回開催 | 76名参加 |

《評価と課題》

- ① 回型介護教室は各老人会、婦人会に開催の協力を頂き教室を開催しましたが、取組みができず開催できない地区もあったことから、次年度に向けて開催できなかった地区への働きかけを行っていきたいと思います。
- ② 子供達への介護教室は、高 者の介護を少しは身近に感じてもらえたと思います。

- ③ 認知症・介護予防教室は、各関係機関との共催で行い、問題を共有して活動できました。

参加された方は、認知症サポーターにもなって頂き、地区でのサポーター役として活動して頂く予定です。次年度も5地区継続して行っていくことを関係機関で確認しました。

(2) 家族介護者交流事業

① 介護者のつどい

対象者 要介護4・5の方を介護している方

介護者のリフレッシュを目的として、介護者の健康チェック、介護相談や相互の意見交換、その後の食事会、入浴等でゆっくりと過ごして頂き、日頃の介護疲れを癒して頂きました。

| 事業内容 | 参加対象数 | 参加希望者 | 実参加者数 |
|-----------|-------|-------|--------------|
| 家族介護者交流事業 | 36名 | 12名 | 10名(男1名、女9名) |

② 地区のお茶のみ会(介護者のつどいの参加状況)

きこりで行う介護者の集いには、介護度が低い為に参加できない、介護する方がいるため家を離れることができない方たちの為に、いいたて在宅介護支援センターと共に各地区での介護者のお茶のみ会を開催しました。

| 開催日 | 場所 | 参加者 |
|----------|--------------|----------------------------|
| 2月16日(月) | 民 | 民生委員1、一般参加1 |
| 2月17日(火) | 比 集会所 | 介護者5 |
| 2月18日(水) | 草野会 | 介護者3、民生委員1 |
| 2月19日(木) | 臼 集会所 | 介護者1、民生委員2 |
| 2月20日(金) | 長 コミュニティセンター | 介護者1、民生委員1、一般参加1 |
| 2月23日(月) | 大倉消防 所 | 介護者3、民生委員1、一般参加2 |
| 2月24日(火) | 沢集会所 | 介護者1、民生委員1 |
| 2月25日(水) | 前田 民 | 介護者1、民生委員1、一般参加1 |
| 2月26日(木) | 飯樋町集会所 | 民生委員2 |
| 2月27日(金) | 内 会 | 介護者2 |
| 3月 2日(月) | 二枚 会 | 介護者1、民生委員1、区長1 |
| 3月 3日(火) | 平自 民 | 介護者3、民生委員1 |
| 3月 5日(木) | 深 集会所 | 民生委員1、区長1 |
| 合 計 | 13会場 | 介護者22名、民生委員12名、区長2名、一般参加5名 |

《評価と課題》

- ① 介護者のつどいでは、介護の状況、苦労していることなどを皆で話しあえたことは、「苦労しているのは皆同じだ「自分ばかりだと思っていたがそうではなかった」など皆さんそれぞれ感じる事があったようです。また、入浴や昼食会を行いリラックスした雰囲気でした。
- ② 介護者のつどいに参加できる方は、例年10人前後です。また、要支援1から要介護3までの方のリフレッシュする場もないことから、事業の見直しを村に提案しました。
- ③ 地区でのお茶のみ会は、近くの集会所で行ったので気楽に参加して頂けたことは良かった。また、一般の方の参加もあり介護保険制度を理解して頂くのにも良い機会でした。

(4) 家族介護用品給付事業

要介護3・4・5の在宅介護の方を対象に介護用食器及び紙オムツの給付を行いました。紙オムツについては月額4,000円を限度に給付をしました。

① 平成20年度家族介護用品給付事業 実

| 給付内容 | 給付月 | 利用者数 | 給付金額 | 発行対象者数 |
|------|-----|------|------------|--------|
| 紙おむつ | 4月 | 10名 | 94,000円 | 52名 |
| | 5月 | 16名 | 134,000円 | 51名 |
| | 6月 | 13名 | 93,000円 | 52名 |
| | 7月 | 32名 | 320,000円 | 51名 |
| | 8月 | 13名 | 68,000円 | 53名 |
| | 9月 | 10名 | 88,000円 | 56名 |
| | 10月 | 37名 | 300,000円 | 57名 |
| | 11月 | 31名 | 322,000円 | 62名 |
| | 12月 | 14名 | 104,000円 | 63名 |
| | 1月 | 42名 | 444,000円 | 57名 |
| | 2月 | 33名 | 252,000円 | 61名 |
| | 3月 | 34名 | 341,000円 | 62名 |
| 合計 | | 285名 | 2,560,000円 | 677名 |

② 紙おむつ 当者の推移

| 18年度 | 19年度 | 20年度 |
|------|------|------|
| 68名 | 71名 | 77名 |

《評価と課題》

① 要介護者が年々増えてきて紙おむつの 当者も増えてきています。

(5) 各種申請代行

一人暮らし高齢者及び高齢者夫婦世帯等、緊急通報装置の設置が必要と思われる世帯へ申請代行をおこなっております。

1. 基本方針

法人の理念に沿って、各事業所との連携を図り、繋がりのある居宅及び施設サービスを提供できるように、必要な情報を提供しスムーズな連絡調整を行なえるよう支援を行ってきた。

- ・情報提供 介護報酬改定に伴う新着情報や 料の提供。また、各事業所に説明。
- ・手続き等 新採用職員への必要な手続き及び諸規程の説明会を実施
- ・行事の参加 福祉会やホームの行事へ積極的に参加

2. 基本的姿勢

各事業所の土台となり、各事業所をサポート、後方支援する役目を担ってきた。
(事務的な作業については、率先して 料作成等を行ってきた。)

3. 具体的な施策

前年度の課題から、 勤め人としての基本姿勢 ルールとモラル について勉強会を行なう。

(1) 福祉人としての福祉の心についての勉強会の実施

- ・新採用者に対しては2日間実施。反面、 来の職員まで手を伸ばすことができず、反省する点であった。

(2) 大人としての やモラル、そしてルールの意味を再度周知徹底する。

- ・(1)と同様に実施。反省点についても同様

4. 一般業務

(1) 各制度の 知に努める。

- ① 今年度は、介護報酬改定が年度末に確定してくるなど時間的余裕もなく、それに伴う算定基準 料や規程、重要事項説明書等を作成するため、担当者は、積極的に制度及び関連情報を収集し、期日内に仕上げると共に各事業所にフィードバックしてきた。
- ② 30床増築、チップボイラーの導入等、1年間の事業量としては、かなりボリュームがあるものの、分担により効率よく実 報告することができた。

(2) 広報 の発行

① 茶団夢 年4回(6月、9月、1月、3月)発行

(年2回発行から年4回発行することができ、タイムリーな情報提供に繋がった。)

(3) 業務の効率化

- ① 業務内容を再点検し、無駄な物品の購入を え、節約をしながら、施設全体がより効率的且つスムーズに業務遂行できるよう努めてきた。

(評価)

今年度は、目標を達成できなかったものも部分的にはあり、次年度で取り組まなければならないが、反面、通常の業務に加え、3年に1度の介護報酬の改定や、30床増築、チップボイラーの導入等、激務の1年となったものの、職員の 意工夫で業務効率を上げ、また、それ以上努力して頂きクリアできたことは頭の下がる思いであった。

